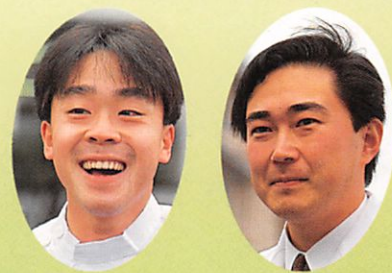
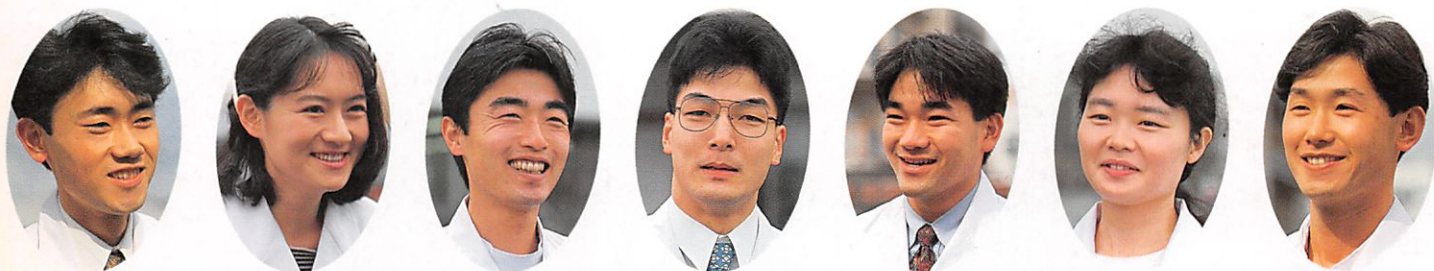


ZOOM UP



1993.No.82



歯界展望

福島駅より郡山方面に向かって車でおよそ20分。郊外に開発された広大な丘陵地にひときわ目を引く薄紫の真新しい建物群。5年前、県庁近く阿武隈川のほとりから此処白銀の吾妻山や安達太良山を一望する光ヶ丘に移転。その名の通り県下の医療の殿堂として、県民の健康と医師の養成を担う福島県立医科大学である。

学部開設は昭和22年であるが、その基盤となったのは、昭和19年、終戦間近に開設され



福島県立医科大学学長

若狭治毅

た福島県立女子医学専門学校。

少数精鋭の医療人養成を方針としているためか、卒業生は昨年3月迄で2400人と、40年を経た学校としては意外に少ない。

「本学は公立として県民の医療奉仕を目的に設立された大学ですから、今までは学生も県内から6、他県からは4割程度の割合でしたが、昭和62年に入試制度が変わってからそれが逆になりました、県内4対県外6になりました。ご承知のように当県は全国屈指の広い県で、多くの過疎、僻地を抱えておりますので、まだまだ医師も不足しております、卒業後、そうした地域に赴任してくれるかど

うか、都会地・大病院志向が強い現状下、心配しております。歯科も同様であるが、机上での過剰と現実とのギャップ、その苦悩を語ってくれる。ご経歴が示すように24年間在籍されていた東北大学から当校に赴任され13年余。昨年11月学長にご就任された。——巣立つ医学生に贈る学長としての言葉は「今年初めての経験で、まだ考えていないんですが(笑)…、やはり本学の卒業生としての誇りを持ちつつ、社会人としての常識・見識をそなえた、患者の痛みのわかる医師となって欲しい。又、研究者には、21世紀の医学の担い手

として、その進歩・発展に全力で貢献していく心構えを持って頂きたい、と云うことでしょね。歩まれた道がほとんど病理一筋。固い学者肌の先生を想像しがちだが、長年学生部長として若い方々と接して来られたためか、明るく柔和な口調で、いたって話しやすい。——入学定員が現在80名。削減によりそうなったのですか? 「定員はもともと80名でしたが、新しい建物が竣工すると100名となる筈でしたが、削減の折でダメだということになりました。経営という面では、設備や人件費の高騰で内情は益々苦しくなり、毎年県から多額の補填をお願いしております」。

お生まれ育ちとも秋田県。「母方の祖先が関ヶ原で石田三成についた佐竹家の御殿医であったことから、母の兄弟が皆医師となり…。そうした関係から私も小学校時代から医者になるつもりでいました。初めは内科を専攻しておりましたが、病理に興味湧き…特にアメリカ留学時代、当時の日本では考えられなかったのですが、病理医の診断能力が高く臨床医に信頼されているのを目のあたりにみて、驚くと同時に、それならと、以来病理一筋に進んで来ました。私の教室からも毎年アメリカなどに留学生を送っておりますが、若い内に広い視野や知識等を養うことは大切ですね。ただ母は卒業後は秋田に帰って来てくれると期待していたのですが…、その点は親不孝だったかな、と医師になられた動機と歩まれた道をお話し下さる。

——大学としての将来の方向は? 「歯科大学もそうでしょうが、大学の役目は将来大学に残り、基礎医学の研究や教育に携わる医師と地域に出て臨床医として住民の医療に奉仕する医師の2つに分けられます。特に後者は先述の様に僻地などの医療に携わる場合があることから、総合診断の出来る医師の養成が必要・不可欠です。その為のカリキュラムの再編成、それと地域の基幹病院とのネットワークづくりを早急にと考えております。加えて高齢化にともなう在宅ケアの医療対処など、医師会、県行政とも一体となって県民のための医療を具体化していくつもりですし、それが私自身の今後の役目のひとつだと思っております。——過去歯科との関わり合いは? 「東北大学で助教授をしていた頃、歯学部で病理学総論を講義していたことがあるんですよ。各論はよく知りませんが(笑)、云えることは、眼と同じように口腔内にも各種の病気の症状がすぐ表れます。内科ですと常に他の病気との関連を考えながら治療をする習慣がついておりますが、局所を診る人はそうしたことを見落としがちです。神経を鋭敏にし、他の大きな病状に目を光らせながら治療をすることが大切ですね。高齢者、寝たきり老人の在宅診療など、歯科においても今後は益々多くなっていくであろう合併症の患者治療。医科と歯科の一日も早い一体化が望まれる。——当校でも剣道、陸上の顧問をされているようですが、現代の学生さんをご覧になって…、「良いところも沢山ありますが、ちょっと物足りないのは、何かに挑戦してやろう、困難なものを克服してやろう、という気持ちが少ないことですね」と。辛口の言葉であるが、昔(?)はなんでもこなすスポーツマンだった学長らしく、カラリとした話し振りは、おそらく学生達にも、学長というよりも頼れる身近な大先輩として人気が高いことであろう。

●略歴

- 昭和5年10月 秋田県に生まれる
- 昭和30年3月 東北大学医学部卒業
- 昭和31年4月 東北大学医学部第三内科教室入局
- 昭和31年7月 東北大学医学部第二病理学教室助手
- 昭和39年9月 アメリカ合衆国、南カリフォルニア大学、客員助教授(病理学)
- 昭和43年3月 東北大学医学部助教授
- 昭和47年7月 東北大学医学部附属病院病理部副部長
- 昭和54年10月 福島県立医科大学教授
- 昭和62年4月 福島県立医科大学附属病院病理部長
- 平成4年11月 福島県立医科大学学長

私と東北大学 歯学部

歯学部長

神山紀久男



■プロフィール

昭和32年3月 東京医科歯科大学卒業
昭和32年6月 同大学口腔衛生学教室助手
昭和36年2月 同大学小児歯科学教室助手
昭和42年1月 同大学小児歯科学教室講師
昭和45年7月 東北大学歯学部予防歯科学助教授
昭和46年8月 同大学歯学部附属病院 小児診療室長
昭和51年8月 同大学歯学部小児歯科学教授
昭和54年9月 UCLA客員教授(55年7月まで)
昭和60年4月 東北大学歯学部附属病院長
(平成元年3月まで)
平成3年4月 東北大学歯学部長 現在に至る

文字通り東北を代表する国立の名門校。「やー、いらっしやい。ちょっとお待ち下さい、いま学部長室の鍵をあげますから」と小児歯科学教室から表れた神山歯学部長。講義、臨床、学生指導、会議、来客との応対。7～8年前、附属病院長として、当誌にご登場頂いたが、その忙しさは年々倍増されているようだ。

昭和40年歯学部が創設されて以来卒業生は既に1217名(平成4年3月まで)。そろ



そろ地域の中堅リーダーとして信頼を得、活躍されていることであろう。「ええ、当校でも3回生までで教授3名が誕生致しました。同窓会支部も全国に21支部が出来まして、各地で交流を深めているようです。そうした声を聞くとうれいすすね」。

が、ご本人は東京医科歯科大学のご卒業。医科歯科の小児歯科学教室で勉強中、当校に赴任された先輩から、予防歯科の助教授として来てくれないか、と云われ赴任。昭和45年7月に参りました、と歩まれたご経歴を。——近年高齢化対策が叫ばれ続けておりますが、その対極である小児歯科については？「着任後6年目から講座が出来、私も予防歯科から小児歯科に移りました。当時はムシ歯罹患率を下げるためには、とにかく小児からというわけで、小児歯科が騒がれていまし

たが、今は小児より老人、という声が確かに高いですね。でも医療は老人から始まるものではありません。小児から自身の生活、健康をキチンと守る指導はいつの時代でも大切なのではないのでしょうか。又、こうも「確かに出生率は下がり、高齢化社会を迎えた現状にあって、本学でも、時世を観る目が鋭い若者ですから(笑)、積極的に小児歯科に目を向ける人は少なくなりましたが、まだまだやらなければならない分野も多く残っています。将来の日本を担う子供達に医師としてもっと目を向けて欲しいですね。又、近年全身から歯科=口腔内を診る、ということが大切と云われておりますが、小児歯科の場合は最初から子供の全身を診ながら、歯科治療をすることが必要なのです。当学部発足当時から、考える歯科医、口腔単位で治療をする、をスローガンに教育をして来ていますので、いま全身云々の治療、と云われても、別段新しさを感じませんね」。選ぶ学生も、今は女性が多くなりました、といわれるが、女性=分娩=子育てという、母親にとっては子供は分身、時にはそれ以上の繋がりを持つ。女性の小児歯科医師の増加は、従来とは違った形で今後の小児歯科界を発展させていくのではないだろうかと思う。—— 歯科医師を志された動機と現在のご心境は？「私の頃は2年間の進学コース(今の教養課程)というものがあって、その後入学試験を経て各専門コースに進む、という制度でした。医科歯科大学を受験する時、医・歯両学部へ願書を出していましたが、先に歯学部の試験があり、面接の際医学部を受けたらもう戻れないよ、と云われ歯学部に入りました(笑)。でも人生を振り返ってみて実際にそうであるかどうかは別にして、自分



では、決して向いていなかったとは思ってはおりませんね(笑)」とカラリと正直に。お話していたのしい歯学部長である。——カリキュラムの変更・改革に各大学共、いま大変と聞きますが「ええ、それは当校も取り組み始めて約2年……。内容は6年一貫教育ということで、1年の後半から専門科目を徐々に取り入れ教育して行くというものです。私立では以前からそうされている大学もありましたが、私達にとっては大きな改革です。ただ、私の個人的な考えですが、特にこうした総合大学の場合は1~2年生の多少授業に余裕のある時が、他の学部の人達と交流を深め、人間的な巾を広げるチャンスであり、それが将来非常に役立つのではないかと、思うのですが。これからは勉強に専念しなければ進級も難しい。何か矛盾を感じますね。教育する側とされる側、時代の狭間にあってその悩みを語る。——東北大学のP.Rは如何に？「当大学は大学全体として研究中心主義ということできており、又実績も多いのです。従って歯学部としてもそれに追いついていかねばなりません、医・歯学部はプラス臨床医を育てるという役目があります。研究面では時間に制約がありそれが悩みともいえますが、ただ学内の雰囲気は昔から非常に自由で、他学部の先生達と共に共同研究をやったり、気軽にサジェッションを受けたりする良さがあります。巣立つ学生達にとってもそうした交流は将来きっと役立つのではないのでしょうか。その他、若い臨床医の先生方の考え方、研修医制度の充実、地元歯科医師会との連携等、お話していると、つい年齢や地位を忘れさせてしまう程、気さくで楽しい歯学部長。席の暖まるのはまだ当分先のような。

社団法人

広島県歯科医師会



会長／松島 悌二
 副会長／赤川 安善
 副会長／長岡 貞彦
 副会長／今田 良男
 専務理事／中村 博
 常務理事／本山 栄 荘
 常務理事／三戸 斌 士
 常務理事／佐藤 致
 常務理事／中井 弘 毅
 常務理事／津田 正 昭
 常務理事／熊谷 克 彦
 常務理事／高木 勇 蔵
 常務理事／藤岡 道 治
 常務理事／柄 俊 彦
 常務理事／有田 一 郎
 理事／森田 晃
 理事／林 和 夫
 理事／大元 秀 男
 理事／宇根 敏 行
 理事／庄 司 武 史
 常務監事／須山 禮 吉
 監 事／山田 隆 一
 監 事／吉光 卓 三
 顧問／河村 行 夫
 顧 問／澁川 哲 夫

広島県歯科医師会館は、世界平和を願って作られた市街東西に走る市100mの平和大通りを広大方面に向かって右に折れ150m程行った右側にある。建物は地上6階地下1階の真新しいビルで、内部は市歯科医師会はもとより口腔保健センター、研修場、歯科衛生士学校等々、まさに県民2,865,575人(平5.1・1日)の歯を守る、会員数1,354名・準会員18名の歯科医師の殿堂にふさわしい建物である。

3時から始まる理事会を前に、県歯科医師会会長であると共に皆様もご存知の日本歯科医師会の副会長も兼務される松島会長、赤川・



会長
松島 悌二

長岡・今田副会長、中村専務理事の5名の役員の先生方から、現在の活動状況、将来への展望、又抱えている問題点等、昔から進取の気性に富む県民性と云われる広島県の実状をザックバランに語って頂いた。

会長：そうですね。他県にはない本県だけの活動状況は、と問われますと、第一に挙げられるものは、平成5年5月25日を設立日とした5525運動の展開です。これはいま日歯で提唱している8020運動に関連したもので、つまり55才で25本の歯を保とうと云う意味なのです。55才と云えば定年その他色々なことの節目にさしかかる年齢、その時25本の歯をキープ出来れば、自身の健康も守られるし、80才で20本の歯の実現にも繋がっていくのではないかと考えたものです。第二は各県とも現在気運が高まっておりますが、昭和45年に発足した歯科衛生連絡協議会。従来はそれぞれが独自の立場で活動していましたが、それでは歯科保健事業が有機的に機能しないということで、広島県、広島県教育委員会、広島大学歯学部、そして我々県歯科医師会の4者が一体となってより内容を充実して行こうと発足したことです。その他昭和59年に受賞した保健文化賞の受賞を機に発足した県歯科保健文化賞制度の設立や歯の祭典等、自慢するわけではないのですが(笑)、他県に先駆けて設置し、県民から感謝されると共に、歯科医師・医療に対する認識が深まったことは喜ばしいこと

ですね。そして何より誇れることは、こうした催事は役員だけでは出来ません。会員一人一人が自覚を持って心よく協力してくれること。これが一番大きな自慢ですね(笑)。



副会長
赤川 安善

赤川：松島執行部になって今年11年目を迎えるのですが、そうした催事における審査員も歯科界だけにとどまらず、地元の新聞社や大学、企業役員や協議会等、巾広い層にお願いし、県民との融和を図っていかうという会長の姿勢が、他県に先駆けてやれた要因だと思います。保健文化賞の受賞も今後の歯科医師・医療の在るべき姿を基本計画としてまとめ、目標年次に向かって努力し貢献した結果、厚生省が高く評価、与えられたものと思われまます。

長岡：現在県下は20の郡市部に分かれ、それぞれ活躍しておりますが、会長が会員の皆さんに支持される大きな要因は、決してただ上から指示をする、ということがない、ということです。自ら行事や総会はむろんのこと、声がかかれば必ず行って若い先生方と話す機会を作っておられることです。下から盛り上がって来る力、これを非常に大切にしているのが、うまく行っている原因だと思います。

今田：そうですね。会長は先代会長の常務理事をされていた時からアイディアマンとして各種の企画、制度、方向づけなど考え出し、それを専務理事がまとめ具体的に実行に移していく。又、そうした場合、

各支部と連絡をとったりデータを集めたり細部の仕事を事務局の方達が手際よく処理、運営できる形に整えてくれることも付け加えたいですね。その結果



副会長
長岡 貞彦

が他県から、広島県のように組織づくりがピッタリいっているところは少ないですね、と云われる原因でしょうね。

Q：その肩の要役を果しておられる中村専務理事。会の執行部と会員の間に入り、今一番の悩みはどんなことですか？

中村：数年前ですが広島市中区では900人に1軒の開業医、旧市街地では60万人に400軒という過密状態を示していました。加えて毎年40～50人の新入会員。そうした状況の中にあって、これからの歯科医師の生活を守るために組織としてはどうあるべきか。「共生」と云う言葉がありますが、競争の原理を含みながら、その共生をどのように指導して行ったら良いのか。それが又会員の大きな悩み・原点でもあり、私達が解決して行かなければならない一番の問題点であるように思われ

ます。私達は常に時代に合わせ変革し、チャレンジして来ました。今後もそうしたこと——例えば地域の中での歯科医師とは？ 自費が主か保険だけでやるのか？ その為には何にチャレンジして行かなければならないか？ そうした物事を一つ一つ会としても挑戦して行かなければなり



副会長
今田 良男

ませんが、会員の方々も個々の方向に自身を磨いて行って欲しいと願っています。その為の医療管理の指導、研修場の提供等、総合的に会員の生活安定や福祉を今後も全力でお手伝いするのが、組織の務めだと思っています。

会長：明治の終わりに発足した当会が、幾多の変遷を経て、6年前に80周年を迎えました。途中皆様もご存知のように原爆という大きな傷を負い、我々の仲間、同胞も多く亡くなりました。毎年その方達の慰霊祭を行っておりますが、そうした中で復興に努力された先輩達を考える時、当県の歯科医師・役員は他県にはない苦勞を積んだのではないかと思います。人

生80年という長寿社会を迎え、新たな問題が次々と私達の身の周りに起こりつ



専務理事
中村 博

ありますが、一つ一つ最良の道を会員の方々と考え、模索しながら今後も努力して行きたいと思っております。

Q：誌面の都合上、詳しくは掲載出来ませんが、こちらには「一子(いちこ)」と呼ばれるP-1型診療支援ソフトを広島県歯科医師会で開発されたと聞きましたが…。

中村：P-1型診療と呼ばれる歯周疾患の治療方法ですが、県内の会員を調べたところ、いまだに会員にその治療がよく理解されていないことから開発された診療支援ソフトです。現在、6県を対象とした日歯調査室「診療支援システム試験」のモデル事業にも「一子」が使われております。又同時に「P-1型・歯周病治療ブック」を1万冊作り(¥2,000)販売しておりますので、もし自院の衛生士の教育にとのご要望があればソフト「一子」と共に当県歯科医師会にご連絡下さい。(082)241-5525

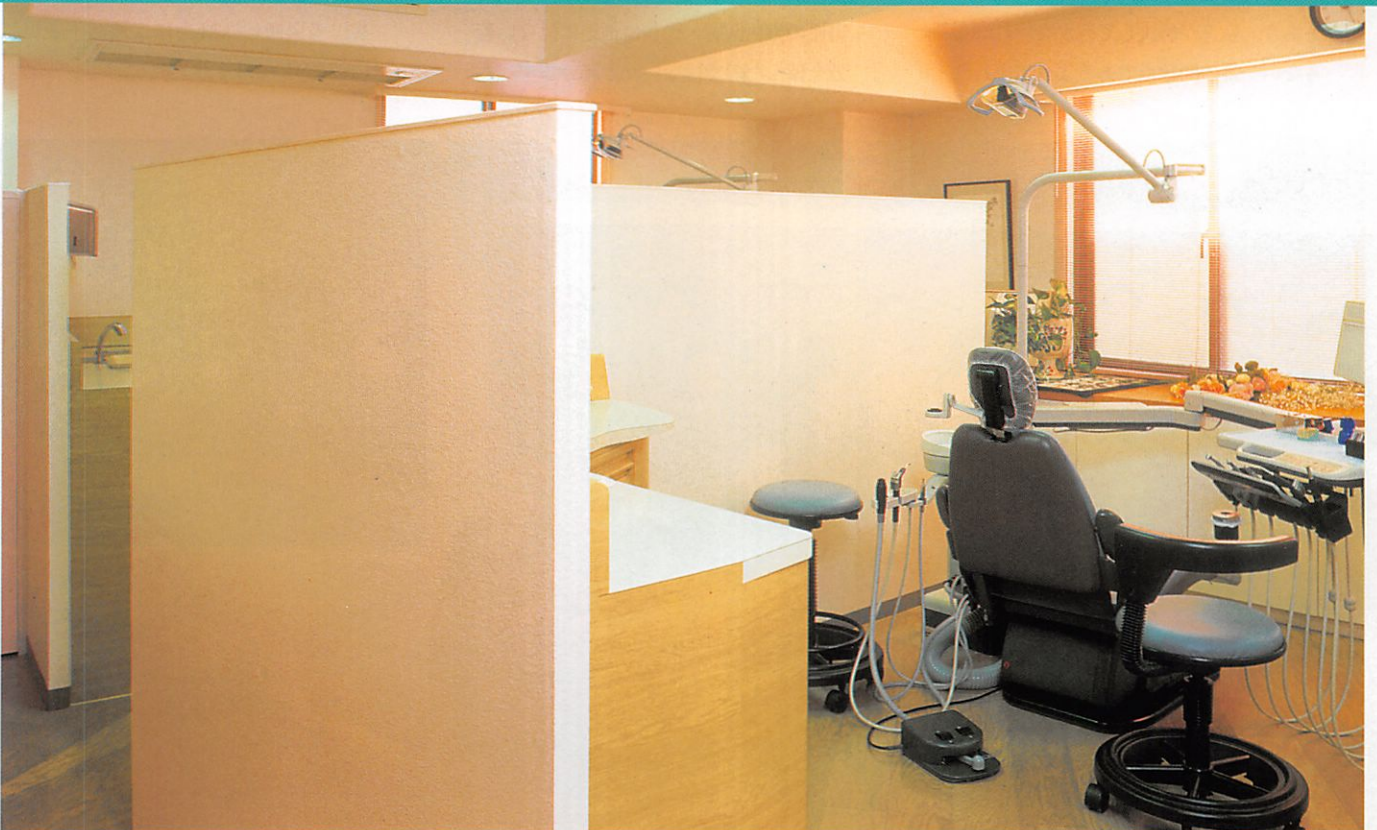


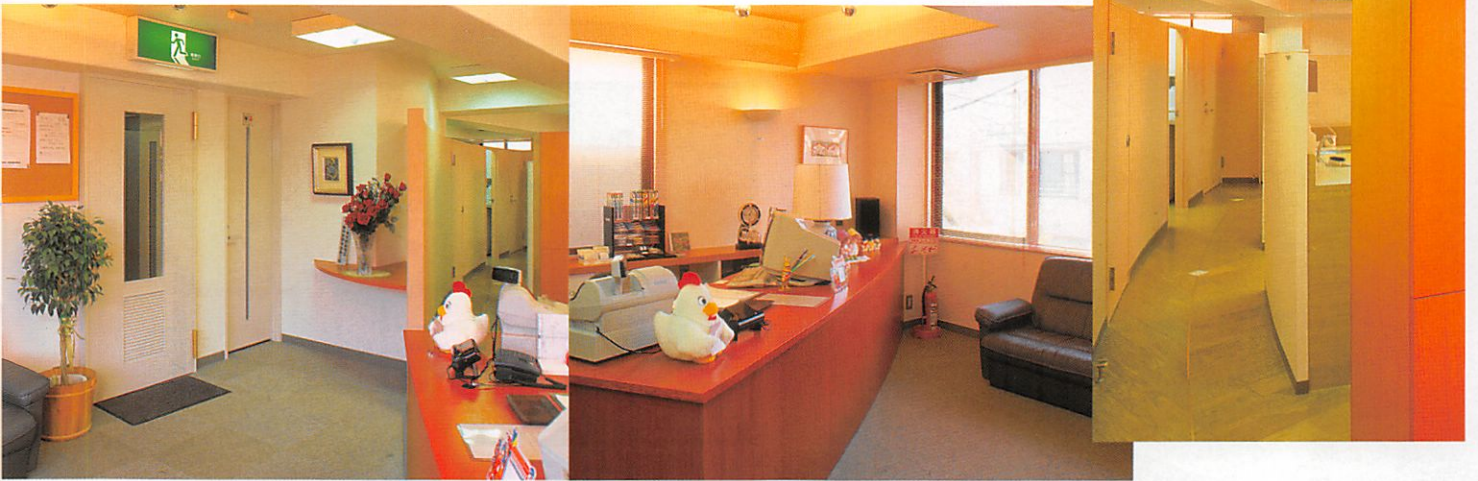


西川デンタルクリニック

東京都新宿区西落合3-30-8 ウメダビル2階

院長 西川周作





中央線中野駅から車でおよそ5～6分。新青梅街道と中野通りが交差する角から15mほどのテナントビルの2階に昨年10月ご開業の西川デンタルクリニック。前面は哲学堂とそれに続く広い哲学堂公園。交差点近く故、車の通りは烈しいが、一步入れれば静かな高級住宅が連なる好環境下にある。1階が薬局、その側面から階段を昇って診療室へ。

玄関を入ると前面にアール状の木目の広い机。その両面に椅子が置かれている。つまり患者さんはその椅子に座って、受付員、あるいは院長とゆっくり話をしながら受付を済ませ、終わった患者さんは後のソファでゆったり待つて頂く、というわけである。従来の医院受付のイメージにとらわれない、入った時から気軽に相談に乗りましょうという雰囲気が出ている。待合室というよりもカウンセリングルームを提供している、という雰囲気。新しいタイプの現代人の心理を掴んだ待合室である。又総ての視線が低く押さえられているためか、限られた空間が広々と感じる。

受付脇から靴を脱ぎ、診療室へ。凶面でもおわかりのように、ゆるやかなアール状の通路に同じくアール状のパーティション。完全個室形式の中にはスマイリー〈ファインGM〉が窓に向かって置かれている。患者さんにはわからないが、3台設置されたユニットチェアも、ライトグリーン、薄紫、グレーとそれぞれ変えられている。こうすると、各個の室に入った瞬間気分転換にもなり…ユニークな発想だな、と感心する。

院長は昭和55年東京歯科大学をご卒業。卒

後は大手町にある読売新聞の診療室で約1年、その後板橋の障害児（者）センターで11年余り心身障害児の歯科治療にあたり、昨年10月実家に近い当地で開業へと踏み切られた。どちらかと云えば特殊な診療に長年携わったご経歴の持主であるが、そうした治療は福祉の充実と医療の原点とは、が問われている現在、将来大きく花開く素地となることは確かであろう。実力、人柄とも申し分のない院長である。

Q：ご開業半年余り。落ち着かれましたか？

院長：ええ少しづつですが（笑）。でも開業前に考えていたより、ちょっと伸びが遅いんですが、開業当初ですから少しづつ伸びてゆく方が良いのではないかと。この都会地の中であって口込みの患者さんや、かなり歩いて来られる方が多いということは他院では得られない何かを当院で感じて頂けている、ということですから…

Q：明るくオープンな感じのする医院ですね。

院長：最初は歯科関係の設計士さんをお願いしましたが、どうしても歯科という既成観念・枠から抜けられず……。たまたま近所に歯科関係は初めてという設計士がおりまして一枚描いてもらいましたら、室内総てをアール構造にオープンなイメージの受付・待合室。これは良いと（笑）。でも途中で設計士さんが、描いたけれどこれはビルの建造上無理だと云って来ましたが、何とか押し通しました（笑）。受付も従来の窓口方式を打ち破つ

たものになりましたが、これは患者さんと視線の高さを同じにし、対面でリラックスした雰囲気の中、ゆっくりお話が出来るとともに患者さんとの隔りをなくしオープンにするということを意識したものです。診療室をパーティション形式にしたのは、ご近所同士、お互いに口の中の無残な姿を見られたくない、という話を聞いていたものですから……。私もこの方が落ち着きますね。限られたスペースで院長室の確保等ありましたので、スタッフルームが少々狭くなりましたが、他はほぼ満足する出来上がりとなりました。

Q：患者層は？

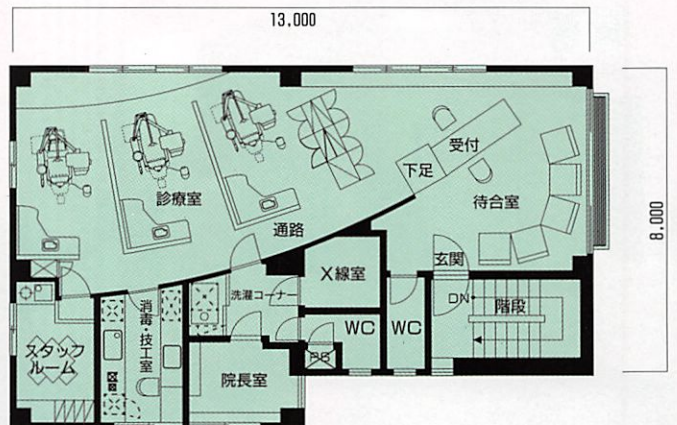
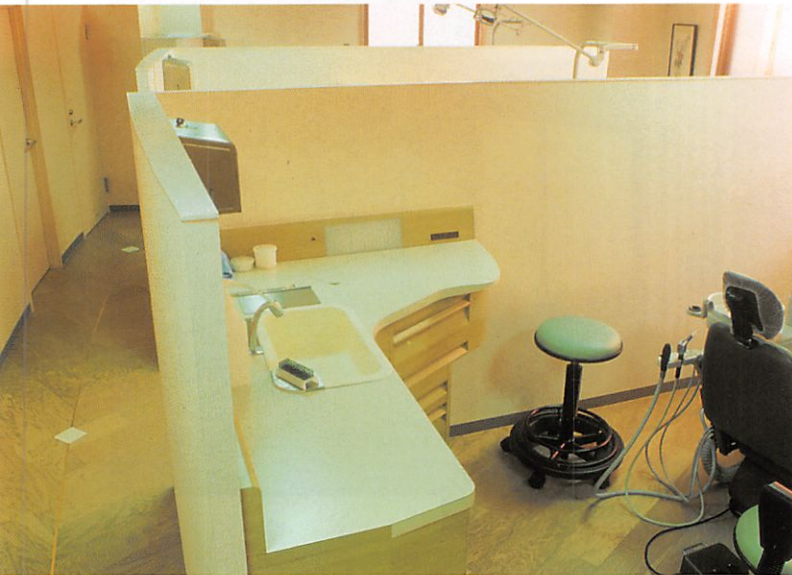
院長：社保の家族の方、個人業者の方が多いですね。

Q：障害児センターで長年の勤務。良い経験をされましたね。

院長：ええ。今でも週1回行っておりますが、そうした方々の治療は、どちらかと云えば歯の治療よりむしろ心の診療の比重が大きいく…。時には家庭の内部にまで入っていったり…。医師として良い経験になりました。入所時、ある高名な先生に云われましたが、こうした治療は1度入るとなかなか抜けられないからよく考えるように、と。やはり心情的に今でも抜けられませんね。

Q：そのご経験をここで活かすことは出来ませんか？

院長：設備、スタッフ等総てが揃えば出来るかも知れませんが、中途半端ですとお互



いにダメになってしまうのではないでしょう。開業時からその点はハッキリ別と考えていました。

Q：将来は？

院長：まだ開業まもないので、その余裕はありませんが、出来たら患者さんと共にこの室内を使って定期的にパーティーを開きたいと考えているんですよ。医者と患者という隔たりをなくし、地域の人達と人間的な輪を広げられたら良いな、と。私は人間が大好きな人間ですから(笑)。

Q：スタッフ教育については？

院長：経験者が多いので、特別これといった細かな指導はしておりません。ただ実務はシステムがわかればそれなりに皆さんやってくれますので、私が注意していることは、患者さんとの対応の仕方ですね。やはり人間関係が一番大切ですから…。それと現在非常勤を含め、私以外に7名おりますが、その方達が一同に集まるのが難しく。行く行くはそうした方向(勉強会)に、とは考えてはいるんですが…。

Q：オサダのユニットを選んで頂けたのは？

院長：学生時代から、オサダの製品は良いと思っておりましてし、センター時代もオサダでした。毎月電話で機械の調子を尋ねてくれたり、アフターも万全だったし、開業時はオサダと決めていました。ファインGMは、それまでのオサダさんとはどちらかと云えば質実剛健というか、ちょっとゴツイイメージがありましたが、これは

スマートで柔らかなイメージ。ひと目見て気に入りました。それとエナックや光重合が内蔵されているのもいいですね。又、ついでに云いますと(笑)、ホースやスピットン周りの衛生面にも神経が行き届いております。良く考えられた新時代のユニットだと感じています。

Q：保険診療については？

院長：保険診療そのものは悪いとは思っておりませんが、その内容がちょっと(笑)。医療は内容を患者さんにもよく説明し、お互いに納得のいった治療が大切だと思いますし、精神的な治療も同じくらい大切だと思います。が、そうした時間が保

険の中では全く考えられてはいないように思えるのです。行政側も大変だと思いますが、インフォームド・コンセントが大切だと云われる今、少し考えて欲しいですね。

Q：最後に全国におられる友人、知人の皆さんに…。

院長：開業するのなら、もう少し体力のあった若い時の方が良かったかな、と今少々後悔しております(笑)。出遅れての開業ですが、何とか頑張っておりますのでご安心下さい(笑)。人生においてこれから最も多忙な年齢になりますが、皆さんも身体には気を付けて乗り切ってください。





たいせつ歯科医院

旭川市東五条2-2-17

院長 吉田貴宏





空港より大雪の連山を見ながら車でおよそ30分。市中心街より10分程走った静かな住宅街に建つたいせつ（大雪）歯科医院。北海道の街々を度々訪れているが、駅周辺のビル街を抜けると、どの町も広い道路とゆったりとした敷地・家々が並び、何故かアメリカ中西部の街路を思い出させる。

たいせつ歯科医院も前面、側面に広い駐車場を有し、敷地も350坪あるという、うらやましい環境下にある。

ほぼ建物中心に設けた入口は、写真でもおわかりのように、シルバークレーの円柱上にガラスの大きな屋根形の庇（ひさし）を出し、雪国らしく来院者のアプローチを助けている。

2重のドアを開けて待合室へ。床は淡いブルー、天井・壁はグレー、受付前面は茶系を配したオープンカウンター。これといった大きな特徴はないが、広々とした空間が気持ちいい。

待合室とは完全遮断の自動ドアを通して診療室へ。院長のお話によると、せめて受付から診療室への通路は開けたかったのですが、保健所の規定に合わず……でも今はこちらの方が良かったと思います、という言葉。歯科に限らず全国各地で受付内部から診療室にそのまま行ける医院を見ている当方にとっては意外な話。機会があったら、厚生省のトップ・担当者の統一見解を取材、皆様にお知らせしたいと思う。

診療室はグレーの交じった淡いグリーンの床に、天井・壁はアイボリー。窓に沿った角面の室内をパーティションで大きく3つに区切り、中には濃淡グレーのスマイリー くファ

イン> S型1台とL型2台が設置されている。各ユニットの側面には治療説明用のホワイトボード、消毒器、ダスト吸引器付技工台と、パーティション内で総て間に合う完全個室型診療室に作り上げている。ゆったりとした空間と和らかな印象を与える配色。心安らぐ診療室である。

院長は日本大学歯学部を昭和57年にご卒業。その後大学院へと進み（専攻解剖学）、卒後は勤務医として都内で約4年半を過ごし、平成2年、生まれ故郷である此処旭川に戻り開業へと踏み切られた。ちなみにお父様（日大歯学部卒）も当院より5分程のところまで40年近くご開業されているといわれるから、何かにつけて力強い味方・アドバイザーであることは間違いないことであろう。恵まれたスタートである。

Q：お父様とごいっしょに診療生活を、とは考えられなかったのですか？

院長：さあー(笑)。ただ周りをみましても、この辺では親子診療はほとんどありません。父の方から先に開業の話があったものですから、初めから父は私と共にとは考えなかったんじゃないですか。私も何しろ17年もの間東京にいましたので、考え方、診療方針等総て異なっていることがお互いにわかりますし……。今は診療上のことはほとんど相談しませんが、急ぎの技工などは、頼まれる時もあります。

Q：昔のフロンティア精神がまだ生きているのかも知れませんね(笑)。……。歯科医

師として10年余。今のご感想は？

院長：長男ですし、当然のごとく歯科医への道に進みましたが、開業してみて感じるのは、私はどちらかと云えば開業医より研究生の方が性格に合っているような気がします(笑)。大学院での専攻が解剖学で毎日電子顕微鏡ばかり覗いていましたが、面白かったし、学問のことばかり考えていれば良かったし、たのしかったから(笑)。また何よりも経営について考える必要がなかったから…。

Q：東京と当地、ギャップを感じますか？

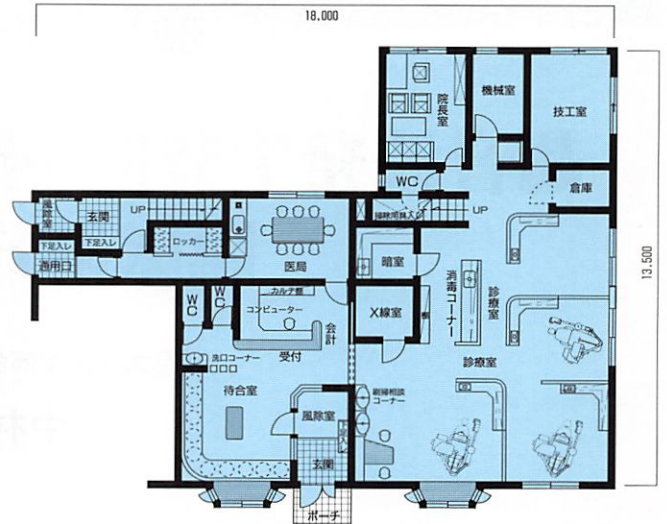
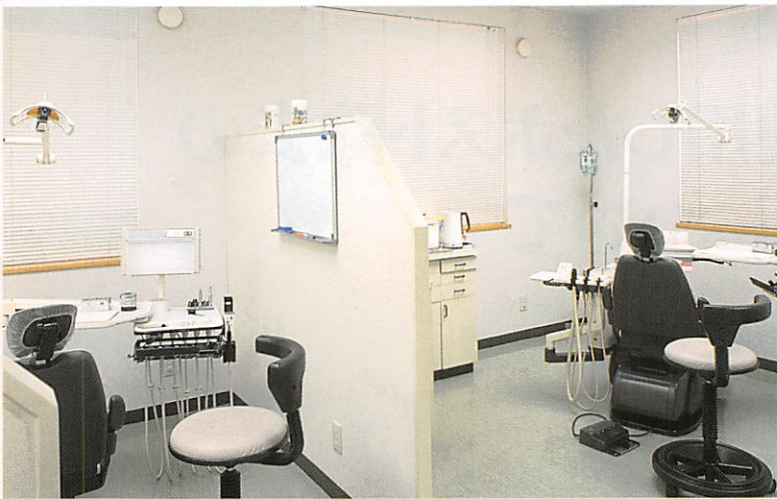
院長：それぞれに良さがありますので一概には云えませんが、自身の勉強という点では世界中の新鮮な情報が集まる東京に魅力を感じますね。当地では、最新の外国の論文などを調べるのに少し時間を要することもあります。東京での経験、考え方の良いところを採り入れつつ、今後は地域の医師として、来院される患者さんの歯に対する認識度を少しずつ高めて行けたら、と思っております。

Q：保険、自費の割合は？

院長：90%以上が保険。自費の患者さんは年に1～2件位です。東京で研修させて頂いた先生が、保険は一切されなかった方でしたので、初めは多少戸惑いましたが(笑)。

Q：ご自身の勉強、又スタッフについては？

院長：この辺りは古い街ですので、患者さんも若い人が少なく、従って東京で開かれる総義歯のセミナーには通っておりますが、解剖に長くいたせいか、基礎系の学



間にばかり目が行ってしまって…(笑)。今は1人で免疫についての文献を読んでいます。在京当時もっと勉強しておけば良かったと、今になって少々後悔しております(笑)。女性のスタッフはいま5人ほどおりますが、不定期ですが気が付いた時で勉強会を開いております。ただ常に注意してもらっていることは、常に自分が逆の立場だったらどうしてもらいたいか、どのように思うか、を考えて患者さんに接して欲しい、ということですね。

Q：患者層は？

院長：午前中はお年寄りの方が多く、午後は子供、夕方からは会社帰りのサラリーマン、という感じです。

Q：完全個室型治療室。地方ではめずらしいですね。

院長：先に云いましたように、勤務医当時の先生の診療室——1人1人患者さんをゆっくり丁寧に治療することが、信頼へとつながる大切な条件だと教えられ、且つ私自身もそう思っていますので、こうした形に仕上げました。スタッフの感染はもとより、患者さんにも安心して治療をうけてもらうため、トレーやコップ、その他血液や唾液などが付くものは可能な限りディスプレイにしました。ほぼ100%近い保険診療の中で、こうした方針は大切だと思いつつも、正直なところコストがかかり大変です(笑)。

Q：このホワイトボードは？

院長：以前父が外科に入院した時、担当の先生がボードを使って術式の方法、経過、

そして予後について非常に丁寧に説明して下さるのを見て、これは良いと……。今は〈シンプルビジョン〉を入れましたので、手描きの説明より数倍の説得力がありますから、主にそちらを使っておりますが……。このシンプルビジョンは極めて簡単に録画・再生が出来ますので、治療前後の比較やブラッシング指導など、スタッフでも簡単に出来ます。範囲を広げればテクニシャンとのディスカッション、新人雇用教育等、色々な方面にも活用出来ると思います。

Q：スマイリー〈フライン〉をご購入頂いたのは？

院長：最初は予算その他の関係で他の製品

(スマイリー-GM)を考えていたんですが、形も良いし、使いやすそうだったので……。ただ開業以前からオサダのユニットの評判の良さは知っておりましたから、メーカーについては初めから絶対オサダ以外の製品を買うことは考えていなかったですね。

Q：ご趣味は？

院長：昔はビートルズバンドを友達とやっておりましたがこちらに戻って来てからは…。ただ北海道は自然に恵まれておりますから、子供を育てるには良い環境だと思えますし、子供達もきっとたのしいのではないかと考えております(笑)。



オサダ商品
〈お元気ですか〉

葛井歯科医院

東京都台東区東上野4-27-12

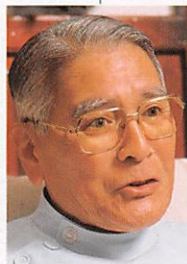
院長 葛井 清
副院長 葛井 正



上野駅から徒歩で5～6分。昭和通りにはビルが林立し都会の雑踏そのままという感じがするが、通り一本入った葛井歯科医院周辺は不思議なほど静かで下町的な雰囲気漂う。

読者の皆さんも様々な会合等でご存知の方も多いことかと思いますが、院長は台東区の歯科医師会会長を初め日本歯科医師会においても種々の委員を務められた先生。中でも終始一貫しているのは、開業医とは切っても切れない診療報酬＝保険問題に30余年の歳月をつぎ込んだ足跡である。その集大成として平成3年厚生大臣より表彰状を受け各界より祝福された。と云ってもご本人はまだまだ壮年の64才。3代続くチャキチャキの下町っ子(人?)。仕事柄とは云え、いたって歯切れがよく、聞く側をいつまでも飽きさせない。

ご経歴も日本歯科大学(現日本歯科大学)を卒業した後、慶応大学医学部歯科学教室で学び、更に日本大学歯学部(専攻薬理学)で医学部より医学博士の学位を取得されたという努力家。そうした名実揃った実力が、こん日の院長の人格を造り上げたのであろう。現代の歯科医療界の問題点を、施術側、患者側、行政の考え方等、理論的に筋道を立て話される。その中から——「近年ホームドクターと云う言葉がよく使われておりますが、これは今始まったことではなく昔からあったことなのです。しかし今患者さんの心状は町の開業医に行くより、出来たら大学病院に行こうとしています。それはこうした大病院の方が技術に裏打ちされた治療、最新の医療行為が受けられるという安心・信頼感があるからなのです。しかし私は歯科医師としての本質は変わらない。異なるのは新しい医療技術に一生懸命取り組んでいる姿勢を患者さんが理解しているか否か、又それだけの——技術に立脚した歯科医療を施しているかどうかなのではないかと思うのです。自身の勉強は今更申すまでもありませんが、開業医(ホームドクター)としての信頼感をいかに大学病院と結び合わせ、患者さんの立場に立って治療を施せば、決して大病院一辺倒にはなってい



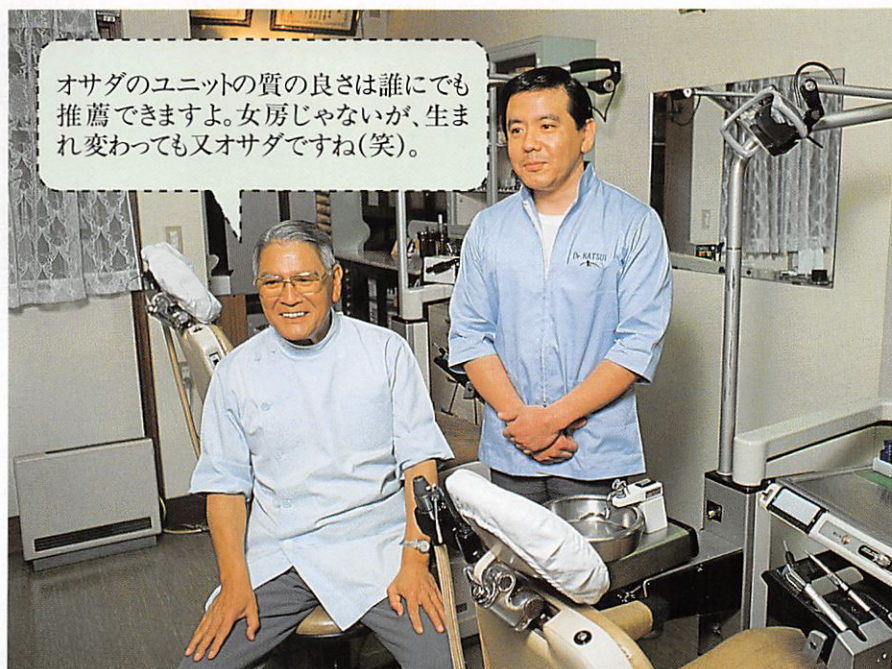
かないのではと思っています」。又こうも「よく、歯医者にかかるかと乗用車1台、と云われますが、それはデンタルトータルフィーであって、これは人によっては天井知らず、一つ一つ疾患部を治していけば、患者さんの負担も少なくて済む。安かろう悪かろうでは困りますが、相手の立場に立って、個々が良いのか、合算が良いのか、考えてあげることが大切ですね」。確かに患者側に立てば1回数千円～1万円、生涯トータル

が、何十・何百万円になっても、1回で何百万と云われれば飛び上がって治療はやめる。地域、患者層によって違うであろうが、院長の言葉がよくわかる。お生まれ育ちも此処上野。現在はご子息正氏(日本歯科大学卒・36才)と共に診療生活。——親子断絶は? 「もう年ですから(笑)、大学院を卒業し、口腔外科に残って勉強しておりましたが3年前に戻って来てもらいました。治療方法の違いは当然ありますが、何より大学時代はバックに大学がついていますが、開



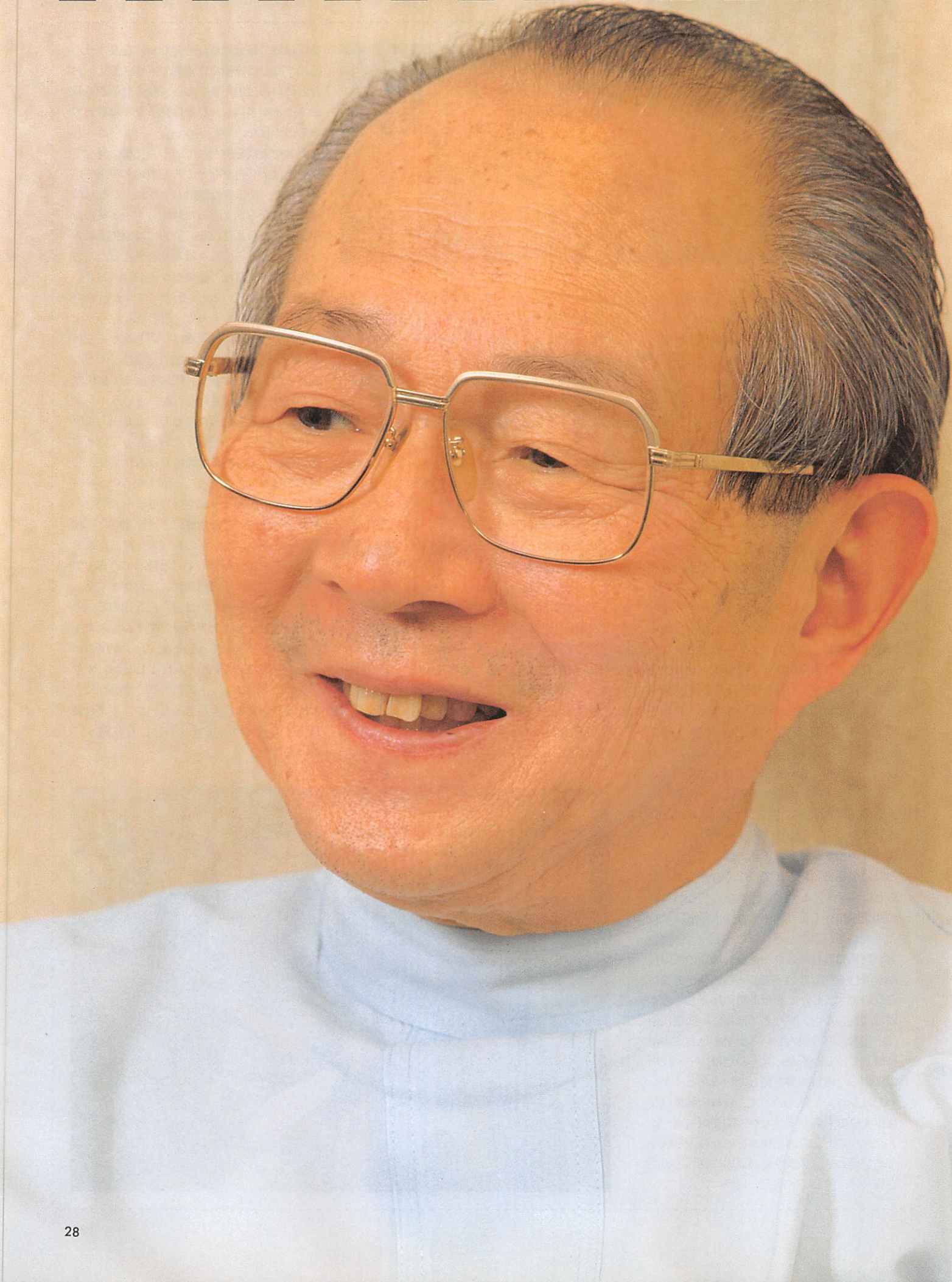
業医は総て自分で責任を持たねばなりません。特に下町では技術だけ優秀でもダメです。お互いに口には出しませんが、私も息子から教わる事が多いし、息子は息子なりに考えているのではないのでしょうか。——で、こうした大きな実績を持たれているお父様に対して正先生は? 「色々ところで親の名が出ていますので、やはり意識はしますね。ただ私は歯医者になろうと思った時からずっと父の背中を見て育ちましたから、共に診療生活に入ったからと云って云々はありません。ただお互いに下町生まれで短気だから(笑)、お互いに我慢し合っているのがわかりますが、治療内容も30年違いますので、患者さんもハッキリ分けて、お互いに干渉は一切しません」。将来は? 「周りの環境・住民の意識はどんどん変わっておりますから、代診を雇って交代制にしたり、今後はさけられないと思うインプラントの導入を図ったりして、もう少し規模を持つ医院に、して行きたいと思っています。幸い(笑)、この職業は嫌いてはなりませんし、選んで良かったと思っていますから……」。——院長について忘れそうに(?)になりました(笑)。

オサダの機械とご使用感は? 「開業時(昭和28年)オサダのレーズを買ったんですが、今でもずっと使っているんですよ。その耐久性には驚きますが、何より良いのは皆さんも認めているアフターケアの良さですね。スマイリーNはもう10年余。息子が戻るにあたってFXを入れましたが、オサダのユニットの質の良さは誰れにでも推薦できます。女房じゃないが、生まれ変わっても又オサダですよ(笑)。有り難うございました。



オサダのユニットの質の良さは誰れにでも推薦できますよ。女房じゃないが、生まれ変わっても又オサダですね(笑)。

Z O O M ㄟ C L O S E - U P



山本為之先生 の巻

東京都中央区銀座4-2-2
弥生ビル8階

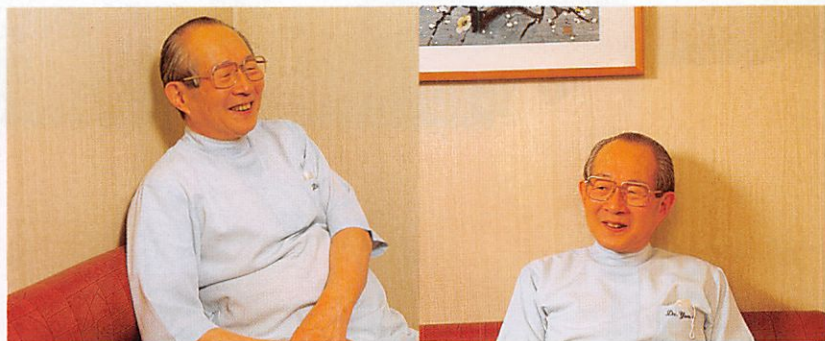
数寄屋橋交差点の角からほんの30m程、有名な銀座教会の隣り、松屋通りと並木通りに面した銀座でも一等地に属する角ビルの8階。

補綴の大家のお一人で“山本方式”と云われるほどの大きな足跡・業績を日本の歯科医療界に残された先生であるが、お会いした印象はむしろ好好爺（失礼）を思わせる、やさしく柔和なイメージ。

今回は大阪大学歯学部教授・奥野善彦先生のリレーにより、多数の著書、講演等でマスコミにもその名を知られる山本為之先生を診療所にご訪問した。

「奥野先生とは20年以上前からお互いに講演や雑誌等で名前は知っていましたが、年齢差や立場が違っていてお会いするチャンスはありませんでした。が、心の中では私の講演・論文内容を見聞きした先生が、人伝にいたく気に入っておられたという話を聞き、うれしく思っていました。直接お会いした

のは10年ほど前になりますか、学会（日本補綴学会）の理事をやった時からお話しをする機会がありまして…。その後、私がそれまで総義歯における診断学が確立されていなかったことから、その一助となるよう一つの方法を考え、雑誌に発表したことから、今までにない発想だと高く評価され、お手紙を頂いたりして、親しくおつき合いをするようになりました。人間の出会いとは不思議なものである。特にお互いに名声を得、自身の力が世間から認められるようになると、他を批判し、排除する方向に、知らず知らずの内になっていってしまうものであるが…。年齢差を越え、友情にまで持っていかれたお二人。人間的なスケールの大きさを感じさせる。「そのお手紙の内容が、私の作った星状のグラフを、当校の学生と医局員の診療に応用して行き度いと云うものでした。それまで私の論文に共鳴



し、良い考え方が、とお話し下さる先生方はおりましたが、それぞれの立場があり、一開業医の考え方を教育に採り入れるという方はありませんでした。私自身も驚ろいたし、そのフレキシブルな姿勢、勇気には心から感心致しました。先生もおっしゃるように、患者の幸せを第一に願うこと。これこそ医療にとって最も大切なことであるし、究極の目的であることはわかっていても、人間一度信じたものを、再度頭の構築からやり直すことは難しい。名人と云われるお二人の若き日の姿勢が目につかぶ。——歯科医師になられた動機は？「いやー、本当は他の職業に進みたかったんですよ（笑）。父親は当時としてはめずらしい、アメリカのオレゴン大学の歯学部を卒業した歯医者だったんです。ところが病気になるましてね。長男だし跡を継げ、と。もしなるのならアメリカに留学させてやると…。

それにつられて（笑）東京歯科医学専門学校（現東京歯科大学）に入ったんですが、戦争勃発。お陰でアメリカどころではなく、満州・支那を転戦いたしました。でもアメリカ生まれですし、留学していたら、ヨーロッパ戦線で死んでいたかも知れませんが（笑）。——ご趣味は？「仕事以外何でも好きですよ（笑）。昔からイージーゴーイングなところがあまして（笑）…。学生の頃は歯医者の勉強より音楽が好きで、学校ではトロンボーンからトランペット、楽器もロクなものはありませんでしたが、とにかく吹いておりましたよ。でもこれが兵隊時代に助かりましてね。たまたまラップ手が病気になる困っていたので、私が吹きましよう、お前うまいんじゃないかということになり…。お陰で通常の兵員より少々楽をさせていただきました（笑）。「その趣味が戦後診療室で活かされてね。今では

どこでもやられておりますが、診療室のあのキーキーガーガーと削る音の恐怖心を消そうとテープレコーダーに吹き込んで待合室に流したり、患者にヘッドホーンをつけたり…。好きな音楽と仕事、その両方を満足させようと色々やりましたよ（笑）。そうしたこと柄をまとめ、聴覚生理学的にみた論文を作成、医学博士の学位を取得してしまうのは、やはり並ではない。

——振り返っての人生は？「私は一開業医ですから、何でもやらなければなりません、自分の性格から得意なものとして補綴に深入りしました。でもそうした中であって、北から南まで高名で立派な先生方を沢山知ることが出来幸せでした。又、歯科医師になったお陰で、大正15年、私が小学校一年時の恩師である大宅昌さん（社会評論家・大宅壯一氏夫人）も今は88才になられるのに来院してくれたり

で、お金にはかえられない人間関係を得ることが出来ました。悔いがあると云ったらバチが当たりますね（笑）。——補綴ということに絞って、若い先生方に何か？「歯科医師という職業は、学理と共に、技術も習得しな

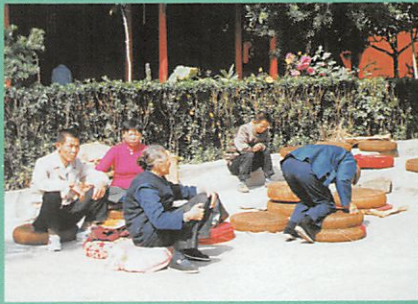
ければならないという大切な面があります。今は技工士さんが義歯を作ってくれますが、それを指導したり、細かな注意事項を与え、総合的に患者さんが満足する義歯を作り上げるのが一番の役目なのです。それには自分で義歯作りを何回も反復練習するしか道はありません。若い間に遊ぶことも大切ですが、週休2日なら1日はぜひ自分の勉強にあてて欲しいですね。外科医で手術が出来なかったら話しにもならないわけです。実務は理屈ではなく、自分の技術です。若い内に自分の置かれている立場をよく考え、それだけはぜひ習得して欲しいと思います。」「私の話しが読者の皆さんの参考になったかなー。歩いた道、表わした文章が、ほんの少しでも皆さんの進歩に役立つことが出来れば私は幸せだ。そう思っているんですよ。最後まで温厚で謙虚なお話し振り。益々円熟味が増す74才である。



海外だより

中国の旅 (その2)

中国の旅



「安慶桜の園後援会」友好訪中団

北京から安徽省の首都合肥に着いた特別参加の3人——ニチワ産業(株)社長の村田氏、姉と私——は、迎えに来ていた中国国際旅行社の幹部で、日本に留学していたので日本語ペラペラの周建国さんと特別バスに乗り込んだ。

安慶市で「桜の園後援会」友好訪中団11名と合併の為である。

この後援会の訪中目的は、建国以来最大の水害に見舞われた安徽省安慶市の復興の為、募金した寄金をとどけに行くこと、そして同市に1984年に贈った桜の苗木400本の、成長ぶりを見る為だった。

この後援会は、第二次大戦中、中国に駐屯した旧陸軍関係者の組織で、過去の歴史を乗り越えて新しい友好関係を築くことがその目的だ。その一環として84年の4月18日に安慶菱湖公園内に「桜の園」が誕生したわけである。

いみじくもこの友好訪中団に特別参加させて貰ったお陰で、この私もその「桜の園」を訪れる機会を持った。もう立派に成長し、春になると綺麗に咲くそうだ。

会の代表で今回の訪中団の団長、織田文雄氏が桜の幹を撫でながら云われた、「私達がこの世を去った後も、末長く咲き続けてくれますから——」

その言葉に、私は「花に託して」という言葉を思い出した。

半生をニューヨークの、しかもそのビジネス社会の喧噪の中で生きてきた私は、色々な願いを抱いてこの旅に出た。その一つは、凄まじいスピードで進む中国の消費市場化で、中国の姿が大きく変わってしまう前に、私の生涯の良き友であり師であった「中国」の生のままの姿を見ておきたい、ということだった。

運良く、訪中団のメンバーの殆どが、その青春の一コマを中国で過ごすという経歴の持ち主だったので、この人達を通して私は半世紀前にさかのぼる中国の姿にもふれる機会に恵まれることとなった。

肅然となる時も多かったが、楽しい旅となった。団員の皆さん、もうみな孫のおられる年代だが、ともかくお若いのだ。

奥村副団長は、体のどこにそれだけ忍ばしてあったのかと不思議になるほど、次から次にヒコーキや車の玩具を取り出しては子供た

ちにやり、すぐ仲良しとなってしまう。

写真係の島田氏は、場所・背景が変わるごとに姉と私の一緒に記念撮影をして下さり、その上荷物迄持って下さる。

岡本夫人は公式レセプションでも歌われる。移動中のバスの中では全員、中国女性ガイドのチョウさんも入ってのカラオケとなり、「雪はコンコン、あられは、コンコン」から「黒田節」迄とび出す。

それで知らぬ間に、私は時点と地点を越えた「修学旅行」気分となっていた。



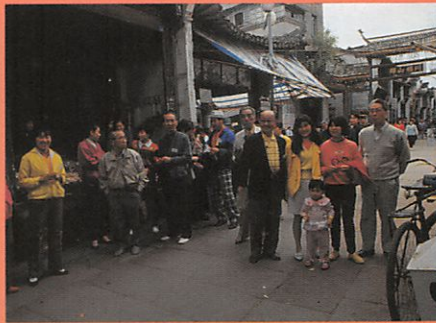
安徽省

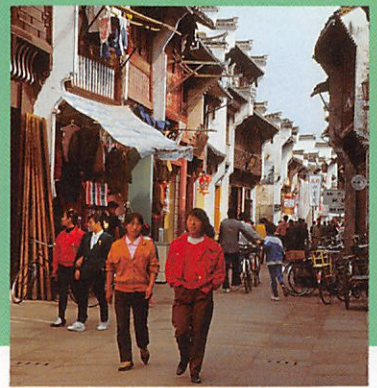
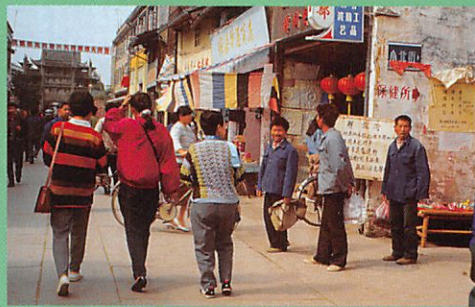
面積は約14万平方キロ、人口5千万のこの省は、中国東部の大天然公園的存在だ。

風光明媚で、中国古代の偉大な詩人、李白が愛した土地で、彼はここで200余の詩を書いたとある。

中国十大名勝地のひとつ、黄山も、四大仏教名山のひとつ、九華山もここに在る。

三国時代の曹操その他の英雄、古代医学者





の華佗といった歴史に名高い人物の郷里でもある。

「文房四宝」と称される紙・墨・筆・硯の原産地であるところから、「文房四宝」の郷里ともいわれている。

古代中国のすぐれた建築遺跡も数多い。

丸く、細く、高い七階建ての建築物を指して、ガイドのチョウさんが言った。「あれは筆、横の平たい建築物は硯、傍の川は紙なんです。

それで私は中国で、「建築は固体の詩、固まった音楽」という理由を理解した。



合肥

安徽省の首都で、人口120万人、省の政治、経済、文化の中心地である。あの名門大学中国科学技術大学もここに在り、新しい科学技術の都市としても名高い。

「三国志」の中の多くの物語はここで発生し、1700年前の古戦場でも著名である。

華佗の郷里として伝統的医学が発展し、中

国最初の中医針灸病院が合肥に設立されている。彼は紀元2世紀から、既に外科手術に麻酔術を使用した医学者で、又、運動で健康を維持することを説き、虎・鹿・熊・猿・鳥の5種類の動物の動作をまねて体を鍛える方法を編み出したことで知られる。

亳州には、漢方薬材の自由市場も設けられている。

ちなみに、省はアメリカの州の様なものらしいが、中国の省は一国に等しいという。中央政府より強いのだそうだ。

合肥は海拔200メートルなので、一昨年六月～七月の建国以来最大となった水害をまぬがれたが、この豪雨で死傷者は約4000人、30万ヘクタールの田畑が土砂や水をかぶるといふ悲惨な被害となった。

合肥市内には昨年出来たばかりのメイン・ストリートがあり、私達のバスはその上を歩いた。

ガイド通訳の周さんが、「この大通りは、人民政府が人民一人ひとりから10元取り立てて、そのお金で作られたものです。ですから出来るだけ、此処にお金を落として下さい」と云った。

以後良くこの言葉、「出来るだけお金を落として下さい」、をあちこちで聞くこととなった。

名所・名産物の郷里では最後に必ずおみや

げ店がスケジュールに組まれており、私達一行は喜んで、又は「上手に」色々を買わされることとなった。

合肥の街は近代都市だが、一步外に出るとタイム・カプセルで昔の人間社会に戻るようになる。そこでは人々の服装も、生活様式も昔風となり、自然・生物・人間の3つの社会が緊密に共存する姿がくり広がる。

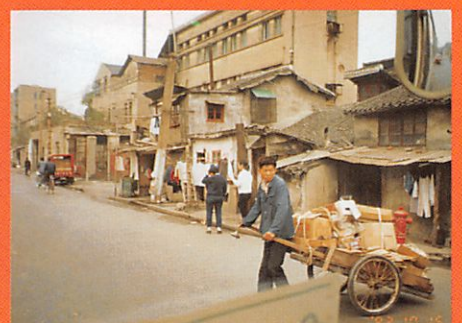
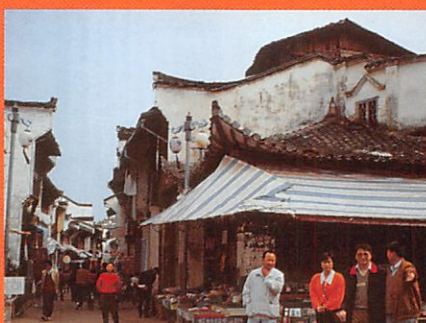
合肥から安慶に向かう5時間のバス移動中、私は何度目を見張ることに出喰わした。そのひとつは、「産業化の過程」ともいべきシーンである。

疾風の如く走るバスの道沿いに、草が干してある。その草が段々大量となる。あれは麻の茎の皮をむいて筋にしたものと悟ったのは、ずっと先になってからだった。

窓外の水牛や豚やアヒルに気をとられていたら、一本のナワらしきものが道沿いに出現した。たった一本、チョロリといった感じで、道と平行に置いてあるのだ。誰かが落としたナワ切れか、と思ったが遠々と長いのだ。

その中それが二本となり、三本、五本……、そして或る地点で、ワッという感じで道沿いだけでなく庭も、そこにある荷車も、塀らしき物の上もナワだらけとなった。

そこを通過するとナワの姿は消え、近くの池で獲ったらしい小魚5匹を地上の新聞紙が何かの上に乗せて、農村の娘が編物をしながら





ら買手を待っている。

忘れた頃に又チョロリとナワが出現し、先程の調子で増えていき、或る時点でワットとなる……。

安慶に近づくにつれ、最初未晒して黒っぽかったナワの色が薄くなり、安慶に着く頃には晒されて立派な「白い」麻ナワとなっていた！



安慶市

都市が近づく、私達はタイム・カプセルから這い出し、繰り広げられる現代中国の風情を眺めることとなる。

何処からあらわれたのかと思う程、自転車姿の人が増え、それに比例して生・動物、そして自然の姿が後退し、消え去る。

都会の人々の風采はファッションブルで、ニューヨークでもまかり通るものである。

ホテル到着は5時15分。南京から16時間の船旅で安慶入りをした友好訪中団はもうとっ

くの昔に着いていて、添乗員の片岡さんがとんできて、「5時50分に今夜のリセプションの為、下で集合！ 正装です！」と云う。

彼は大阪の旅行会社の支店長で、中国関係の仕事に携わること20余年。中国語がペラペラで、カラオケでは何時も中国語で中国の歌を披露した。なかなかの美声である。

部屋に荷物を運び入れ、それをほどこきかかったらもう集合5分前で、顔を洗う暇も無い。

今夜は安慶市の歓迎晩餐会で、市の高官達がズラリと一列に並び、私達を拍手で迎えてくれた。

会場はホテルの安慶賓館で、私はメイン・テーブルで、人民政府の周副市長をはさんと織田団長と座るという光栄にあずかった。主催側のホストである劉思魁市長の急病入院で、副市長3名その他から厚いもてなしを頂いたが、副市長のひとりとは女性だった。

まず歓迎の辞で始まり、中国側は周副市長が周建国さんの通訳で、日本側の答礼の辞は織田団長が片岡さんの通訳でそれを担当。

儒教、仏教の国だけに、周閣下の辞には造詣が深い中国の諺が登場した。曰く、「井戸を掘った」人の恩を忘れない、「前事不忘、后事之師」（前のことを忘れず後の戒めとする）――。

その後、閣下の「乾杯！」でこの友好の宴は始まり、14種類もの珍味の品々が所狭しと

次々にテーブルに運ばれてきた。

ところが周閣下は、食べることより「乾杯！」で忙しいのだ。それぞれの席の前には乾杯用に二つのグラスが用意されていた。ひとつは透きとおって無色、もう一方は茶色で、ザクロのお酒と聞いた。

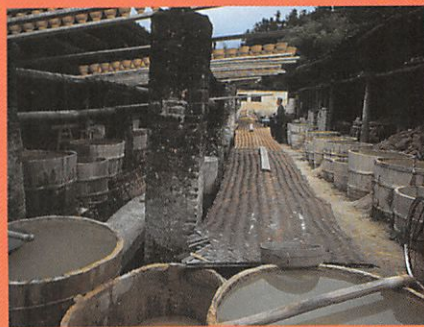
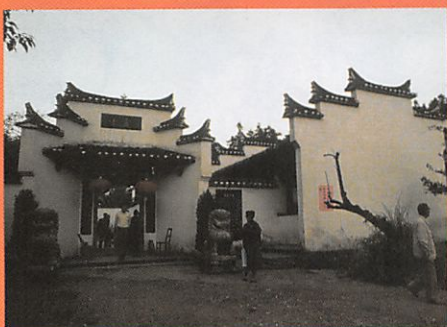
周閣下は常に無色の方のグラスを持ち上げ、「ハッ！」と乾杯をうながす。

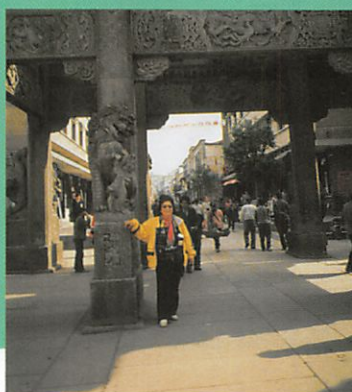
彼が「ハッ！」と云って此方の目を見つめたら、此方も「ハッ！」と云ってグラスを持ち上げ、相互にグラスを当て、相互の顔を見ながら乾杯、つまり「飲む」こととなる。

相手の顔をじーっと見ながらの乾杯は、相手がちょびりした飲み方なら、此方もちょびり、一息でグイなら此方も一息でグイと飲み干す、という一種の決闘の様な「飲みくらべ」である。

「ランコさん、その無色の方は〇〇と言って、田中角栄が以前に訪中した際に出たお酒で、アルコール度は〇〇%です」と片岡さんがテーブル越しに教えてくれたが、周囲の「ハッ！ ハッ！」で良く聞こえない。分かったのは「大変高価で、それは強い」お酒ということだけだ。

私はその日北京での朝食だけで、あとは移動、移動で何かかじっただけである。これは注意した方が良く、と主にザクロの方で「ハッ！」に応じた。口当たりの良い美酒である。





またたく間に会場は、友好的情熱で溢れ、周閣下が上着を脱ぐと皆それ右へ習えて、ワイシャツ姿でホスト側も客側もテーブルからテーブルを歩き回って「ハッ！」となった。宴も終わりに近づいたのもう良からうと、私も無色の方に切り替えて、女性股幼華閣下のテーブルに行き、「ハッ！」と挑戦してみた。

彼女はニヤリといった感じで立ち上がったが、見るとザクロである。「ダメ、ダメ！」とやがして無色を持たせ、じーっと顔を見つめながら一息でグイ。そこに居た人達から歓声があがり、私はすっかり愉快になった。

最後に記念に、周閣下にも無色で「ハッ！」と挑戦し、一息でグイ。

上半身がカッと熱くなるので、どれ程の酔いとなるかと思ったが、気が張っていたせいも、すっかり楽しいホロ酔い加減で済んだ、と思ったのは私だけだったかも知れない。宴会後黄梅劇観劇への招待となり、この7人の天女の物語の、視覚的美しさ、あでやかさに目を見張ったものの、何せ言葉が分からない。あっという間に深い眠りの奈落の底に落ちてしまった。

翌日は市内観光後、「芸術祭」参加。何のことかと思ったら各産業の見本市で、60年代にJETRO（日本貿易促進協会）がやったの

と全く同じやり方での、中国製・商品の促進である。

開けると30センチ程の、手も何もついてない傘があり、使用法を聞くとヒョイとかぶってみせてくれて大笑いとなった。手で持たずに済むので、手仕事が出来るといった。

姉が面白がってひとつづい、夜ホテルで二人きりのファッション・ショーをして興じた。

その夜は今度は日本側主催の昨夜の答礼友好の宴で、今度は私達が一列に並び、拍手で客である新しい顔ぶれの人民政府の高官達を迎え、昨夜同様楽しいこととなった。

今夜の中国側の出席者には芸術分野のリーダーが多く、私は中国太平天国史研究会理事、中国書法家協会 省書協理事その他幾つかのいかめしい肩書きを持つ安慶市博物館館長の胡寄樞閣下の隣りという光栄に与った。

同じテーブルに安慶市書書院院長の房學蓬閣下、中国美術家協会安慶分会理事の張旺清閣下も在り、肩書きに関係なくみなすぐ仲良しとなった。あの「ハッ！」を数回やると、そうになってしまうのだ。

特に胡寄樞閣下とは話がはずんだ。相互に言葉は通じない、通訳を通してではまだるっこい、で漢字を並べての筆談である。

「私大変嬉楽（私はとてもエンジョイしています）。我国（日本）経済成長大、生大変騒喧（日本は経済大国となったお陰で生活はやかましくなった）。日本製米人（私）」、そして姉や私の名のいわれ迄説明したのだ。

「語言不通恨多心里話想説（言葉が通ぜずまことに残念）」と閣下は書いた。「編者、画家相通（でもジャーナリストと画家だから通じますね）」

そして私のことを「豪放」と書いて笑った。中国でいう豪放とはどういうことですかとききたかったが、流石に筆談では無理だった。

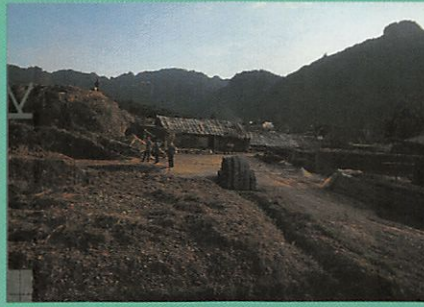
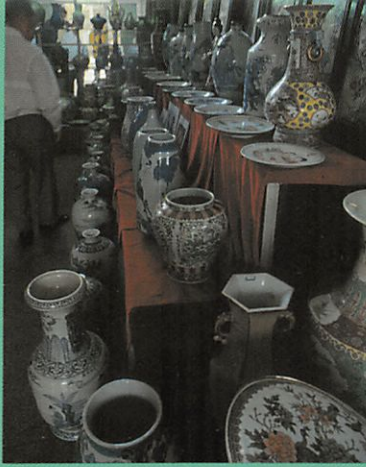


中日名人、高手釣魚邀清賽（中日釣り大会）

旅行中一度だけ雨が降ったが、よりによって待ちかねた釣りの日に降った。

中国代表8人、日本代表は村田氏と私の2人である。ゴルフ・セットの3倍はあるかと思える超本格的釣道具持参の彼は、「私は数





でなくサイズで行きます」と焦点をしばっている。

私の方は、何でもいい、何でもいから釣ればいい、という気持ちだった。皆ブーツで私だけがテニス・シューズである。その時から悪い予感がしたが、見事的中となった。

大会の場は揚子江と思込んでいたところが、大きいとはいえ生簀だった。私は生簀は元より穏やかなところで釣ったことが無い。

餌は村田氏の練り餌だが、私は練り餌で釣ったことが無い。あたりは泥沼化していて、車を下りた途端、泥が粘土土に靴の上迄這い上がってくる。数歩あるいた時の私の両足は、それぞれパソコンをくっつけて歩く感じとなった。

そして生簀の水際に至る頃は坂で、雨でその草は滑る。必死の思いで水際にたどりつき、竿を組立て投げてみる。

「ドボン…」の感触で錘も釣り針も大き過ぎるとすぐ分かり、針を最小のととり替える。それでも具合が悪い。水深1メートル足らずらしい。私はそんな浅瀬で釣ったことが無い。

こうして8時頃から釣り始めたが、10時になってまだまだ誰も釣り上げた人は居ない。ああこれがNYだったら、貝や小魚やイカと餌をとり替えて、どれが魚の口に合うか試すこ

とが出来るとに……。

そしたら少女が小さな網ですくった小魚数匹かかえて通りかかった。天の助けと一匹貰ったのは良いが、誰もナイフを持ってない。仕方ないので鉋で切って餌としてみたがダメである。

暫くすると、中国選手がやっと最初の一匹を釣り上げた。10センチ位ので、餌は何とトウモロコシだ。針は私のよりまだまだ小さい。魚が生簀の彼方から騒ぎで此方側に寄ってきたらしく、それから中国選手達は釣れだした。

何とか一匹、とふんばってそちらの方に糸を投げた途端、見事足が滑って「スッテン！」と水際で引っ張り返った。坂なので下手に動く生簀に滑り込む。私は大声をあげた。

周さんと中国選手がとんできて助け起こしてくれ、気の毒がって、生きたミズを私の針につけてくれた。これでやっとこさで、4時終了迄には私はメダカの王様位のを一匹釣り上げることが出来た。終わって道具を片付けていたら、ビニール袋の片隅に雨で出来た水溜りの中で、彼はまだ元気だった。

中国に来て釣りををして、私は少なくとも一匹は釣ったのだ。リング位の練り餌で大物を狙った村田氏よりは、成果があったと自負すべきであろう。「御苦労さん、元気でね」と私

は彼の小さな頭を撫でて、生簀に戻してやった。

中国側の成果は大で、その夜の晩餐会で賞品全ては中国側にせしめられることとなった。彼らの手法は、ながーい竿で、錘なして、糸をそーっとたらずやり方だ。

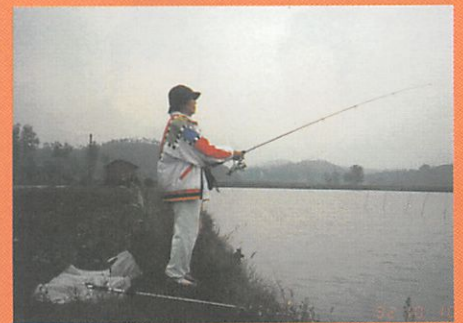
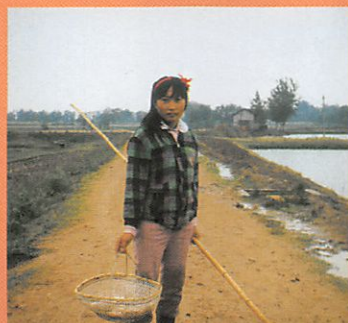


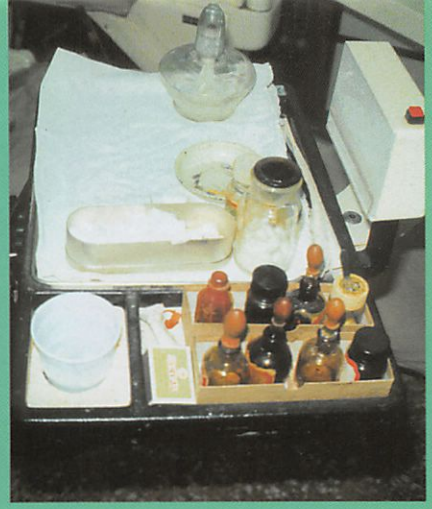
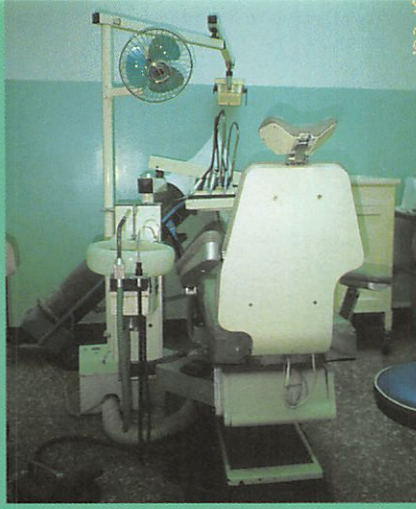
医術

2千年も前から、中国では心身のバランス維持が健康の秘訣とされている。所謂「インとヤン（陰と陽（?））」のバランスで、故に医者には「生き方」を説く師という認識がある。

早朝の上海の人民公園は、「タイチーチャン（太極拳）」に励む人で壯観となる。自己の体のセンターの位置を把握し、そこを中心として体内にエネルギーを流す運動である。

「チ」はエネルギーの源であり、そこからエネルギーは流れるから、体内のあらゆる器官はそこと繋がっていないと行かない。





「体に故障が生じたら、それを治そうとせず、まず自己の体のセンターを発見せよ」、つまり頭と精神で肉体の状況を変え、その結果体の故障を治す、ということである。

「チ」の位置は人に依って異なるが、おへその下部というのが一般らしい。

西側の一般人にとって、中国の伝統医術を理解するのは不可能に近い。しかし目前で、鍼だけで、患者の意識のあるままに脳腫の手術が行われ、手術中の患者が質問に答えて「痛くありません」というのを見ると、その効果を信じざるを得ない。

鍼で麻酔効果を出す時、指先だけでどうしてそのツボが分かるのか？ 全ての原点が違うので、中国側も説明が難しく、「魚釣りの際の食いつかかった時の感触の相違で分かる、といった説明となる。「チ」エネルギーの流れは、西側の理解する神経や血管とは全く無関係、と云われ益々分からなくなる。

中国でも、伝統医術の修得は簡単でない。

「10枚の紙を、鍼を曲げずにさせるようになったら及第」といわれる。鍼の代わりに指を用いるマッサージでは、「袋の中のお米を手で布の上から粉々に出来たら」、初めて人間相手にマッサージをする資格が出来た、とい

われる。しかもその前に、まず5年か6年専門学校で学び、少なくとも1年間のインターンを経て、国家試験にパスしていなければならない。

歯科医は中国では牙医生(ヤーイーセン)と書かれる。23才の「ヤスコ」さんは、友人に虫歯を抜いて貰ったから只だったが、歯科医だと20元位だそう。彼はまた西側の歯ブラシや歯みがき粉を知らない見たこともないという。

コルゲート・パーモリブが今年現地生産の歯磨きを新販売する予定だから、彼が西側の歯磨きを使用し出すのは時の問題であろう。

中国の消費市場の伸びは、50年代の日本や60年代の台湾よりも速いスピードといわれる。

私達が行く寸前に、日本のヤオハンが上海にアジア最大のデパート店の建築にかかっている。130万平方フィートで、メイシーより20%大きいという。或る開発業者は、今世紀末迄にスーパーマーケットを1000建設する予定だ。

「小さな政府・大きな企業」を目指す中国の市場経済改革は、多分1949年のマオ革命を

しのぐものとなりそう。ソ連は政治改革を先行し崩壊した。経済改革を先行する中国は、この調子で行くと、21世紀初期にはアメリカを抜いて世界最大の経済となりかねない。最大懸念は88才の鄧小平が、死んだら必然の政治体制の混乱であるが、それも時が解決しよう。

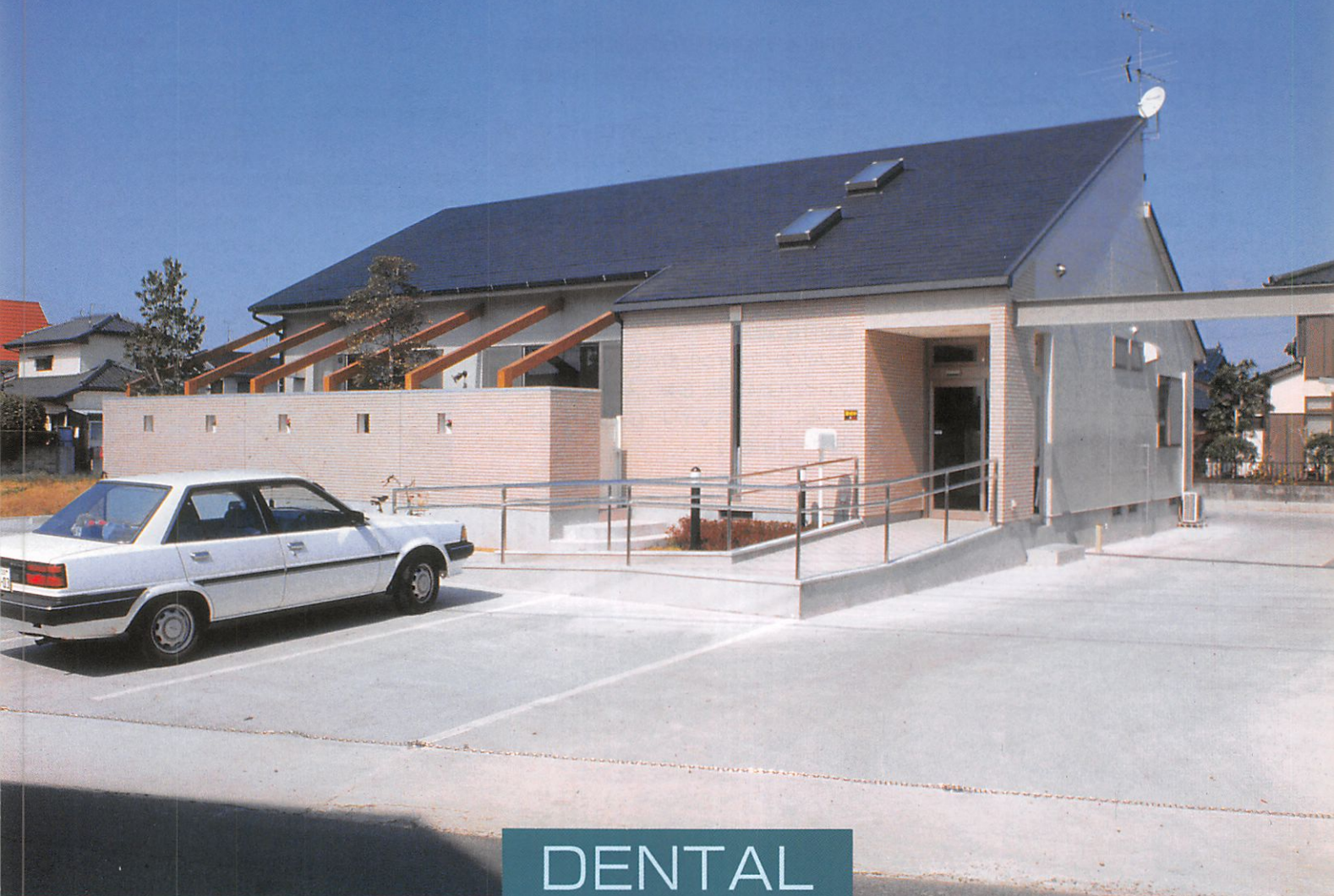
中国はこの夏、1911年の革命の父サン・ヤッセンが夢見た世界最大の「スリー・ゴージス・ダム」建設にとりかかる。完成は18年かかり、経費見積もりは300億ドルという。110万の人民が郷里を失い、375マイルに亘る湖が出来上がることとなる。

私の今回の旅は「落葉帰根」であった気がする。年をとれば故郷に帰りたくなる——。私は東洋哲学の故郷に、その姿がこの地上から消え去る前に、帰っておきたかったのであろう。

著者紹介
岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒業
ランコインターナショナル社長





DENTAL SPACE

田中歯科医院

熊本県八代市日置町字京塚160-3

院長 田中裕子

Simple is Best.
それを心掛けましたが、
患者さんの評判も良く、
ほぼ満足に仕上がりました。

九州自動車道八代ICを降りておよそ10分。まだところどころに田畑が点在する静かな住宅街の中に、ご紹介の田中歯科医院は建っている。豊富な工業用水や電力、八代海に面した地のりから、紙、パルプの生産が盛んな土地らしく、医院の窓からも十條製紙の高い煙突から、白い煙が春の青空に広がっていた。

屋根は前面に長い「への字状」の黒。薄茶のタイルを貼った壁面と白い塀の建物を囲むように作られたコの字形の駐車場。広い敷地(約220坪)にゆったり建つ外観からは、とても若い女医さん1人が経営する医院とは思

えない。

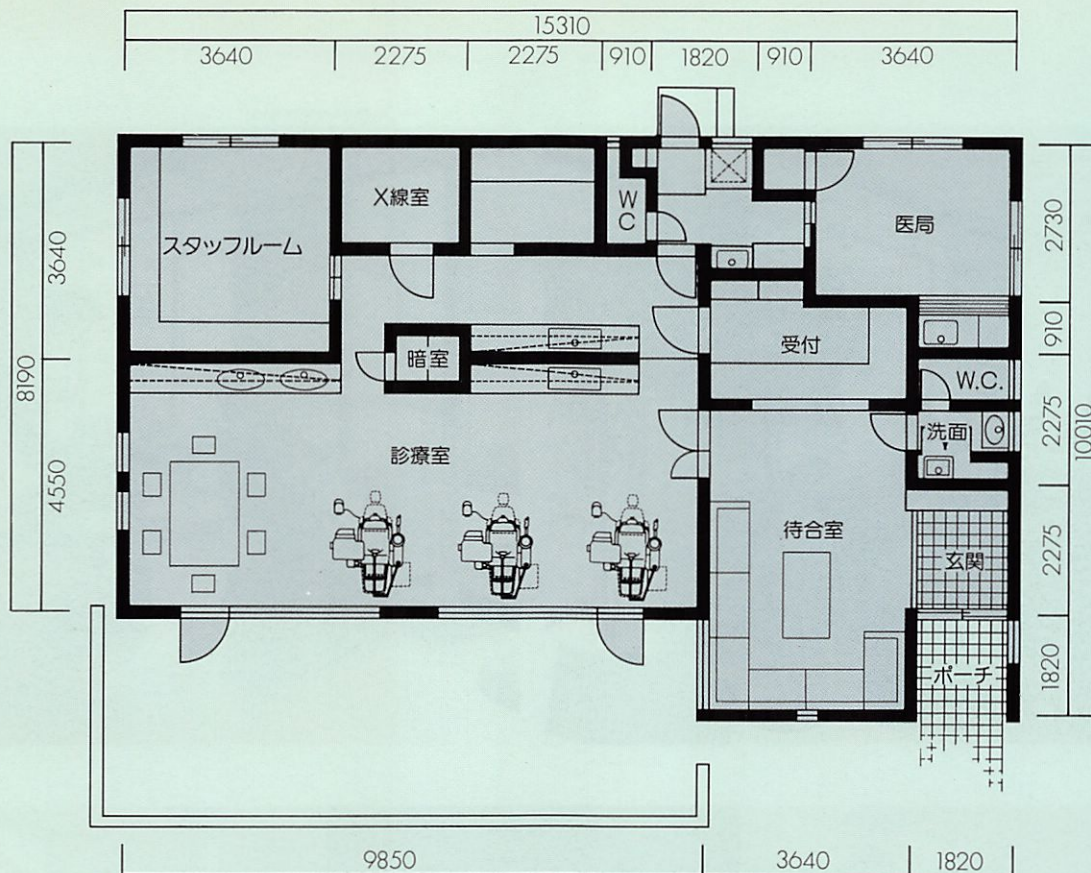
ゆるやかなタイル貼りのスロープから玄関へ。待合室は木目の床に白い壁と天井。一見ただけではわからないが、中に立って天井を見上げると、中央の2つの天窗から青空が望まれる。ゆったりと広い室内のコーナーにはグレーのレザータッチのソファが。座り心地、感触、気持ちいい。

マス目の素通しガラスの白いドアを開けて診療室へ。床は待合室同様、木目材を使用。アール状に作られた高い天井。床までの大きな窓に沿って並列に並べた濃淡グレーのスマ

イリー〈ファインGM〉RLタイプ3台。その奥側は観葉植物に囲まれた、くつろぎのコーナーか、とも思える大き目のテーブルと椅子が。窓の外は季節の花々が置かれた広いテラス。ユニットがなければ、そのまま広いリビングルームの雰囲気だ。配色も木目の床以外は総てモノトーンと、どちらかと云えば男性好みの色使いであるが、どこことなくやさしいイメージが漂うのは各所に置かれた植物と可愛い壁画、スタッフ一同の暖かい雰囲気のせいであろう。

明るく広々、医院の冷たさ暗さは全くない。各所に気を配った素晴らしい歯科医院である。

院長は昭和56年九州歯科大学をご卒業。卒後は菊池市、熊本市内の総合病院・歯科室で10年間勤務医を経験。昨年8月、生まれ故郷である当地に戻り開業へと踏み切られたキャ



■開業：平成4年8月 ■スペース：約132㎡（約40坪）

■ユニット：スマイリー<ファインGM>RLタイプ3台

■診療時間：9：00～13：00、14：30～18：30分、土曜日・9：00～13：00、
（休日）日曜、祝日、第1、第3土曜日

■スタッフ構成：歯科医師1名、衛生士2名、受付1名

■患者数：1日約30名



院長 田中裕子先生

リア充分な歯科医師である。

友達感覚で笑い声が絶えない院内。明るい室内共々、患者さんにとってはホッとする、うれしい歯科医院であろう。

Q：総合病院で永年のご経験。良いところに勤められましたね。

院長：ええ、一番のメリットは歯科以外の他科の先生達と知り合いになれたことです。色々な病気の症状を知ったり、オベにも立合わせて頂いたりで、本当に良い経験をさせてもらいました。

Q：では開業後はほとんど万全？

院長：いえいえ（笑）。勤めていた頃は怖いもの知らずというか、麻酔一つをとっても万一の時には助けてもらえるという安心感がありましたが、開業したら自分一人。総てのことに勇気がいりますね（笑）。

Q：開業一年近く、そろそろ落ち着きましたか？

院長：それがどういうわけか、開業して2週間目に患者数も30名になりましたが、以後ピタリとそのまま。不思議でしょ。でも30名で私はギリギリ、これ以上増えると……。でもまあ順調と云えるでしょうね（笑）。

Q：患者層は？

院長：40～50代の社保のご本人と近くに幼稚園と小・中学校がありますのでその子供達。十条製紙が近いのでそこで働いておられる方達が結構来院されますね。

Q：歯科医師を志された動機は？

院長：小さな頃祖母が病気で生死をさまよった時、お医者さんに助けてもらい、医者は偉大だなーと強く思ったことが医師へと向かわせたようです。でも女性ですし、

医者にはちょっと無理かな、と。それと細かな仕事が好きで…。自立した職業と医療従事者、そうした総てが満たされる職業として歯科医になりました。

Q：で、今は？

院長：開業当初は、患者さんと共に死ねたら





本望と張り切っていました。が、だんだん疲れが出て……。まだ1年たっていないのにダメですねー(笑)。でも患者さんに心から感謝されると、この職業を選んで本当に良かったと思います。又、スタッフにも恵まれてね。最近よく衛生士は3Kと云われ、若い女性から嫌われる職業になりつつあるでしょ。それを聞くのがつらくて、最初の頃はそれを改善するのが私の役目と思っていましたが、今は3Kどころか8Kか10K。初心はどこに行っただのやら……。よく堪えてくれるスタッフには感謝しております。

Q：診療室を作られるにあたってご留意された点は？

院長：昔の歯科医院は、窓が小さくて暗く、怖そうな機械が一杯でというイメージがあったでしょ。それだけは絶対にさけた

いと設計士さんに依頼。ユニット以外は総て患者さんの視野に入らないところに設置しました。Simple is Best. それを心掛けましたが、患者さんから、ここは暖かく、明るくていいですねー、と云われますと私の意図したことが患者さんもわかってくると……。うれしいですね。

Q：このコーナーは（奥面のテーブルと椅子）？

院長：衛生士さんはガーゼを切ったり綿を丸めたりする色々な立仕事があるでしょ。それを座ってここでやってもらったり、診療終了後ここでお茶を飲みながら皆で雑談することに利用しています。でも本当は待ってる患者さんに庭を見ながらここでお茶などを出す、カフェ&デンタルクリニックを目指していたんですよ(笑)。でも今はそこまで手が回らなくて……。

Q：方針は？

院長：女性ですから、だいそれたことは出来ませんが、常に自分がやられたくない治療は絶対にやらない。患者さんの身になってハートのある治療。その為には基礎をキチッとやること。それを心掛けています。でも時々、時間がなくてすぐ患者さんの要望に応じてあげられなくて……。その辺が悩みですね。



Q：将来は？

院長：色々ありますが、地域の子供さんなど集め、このテラスで“青空ブラッシング教室”など開いたらたのしいでしょうね。とにかく地域医療に密着した、ホームドクター的な歯科医師になれたら、と思っております。

Q：オサダのスマイリー〈ファインGM〉RLタイプ、使い心地は？

院長：初めはパーティションを入れ、他社を考えていましたが、開放的にした方が良いとのアドバイスで、前面の視野が妨げられないファインGM-RLタイプに決定しました。初めての経験で最初は多少戸惑いましたが今は完璧。使用感はいいですよ。

〈設計・施工の立場から〉

御施主様の希望により、「明るく清潔な診療所」をコンセプトにプラン、外観をまとめました。住宅では一般的なサーキュレーションプランの採用により、スタッフと患者さんの動線を効率的に、かつ干渉し合わないよう配慮しました。又、患者さんの緊張感を和らげる様、シンメトリーデザインとシンプルなインテリア（間接照明、色調、家具）により視覚的な効果を図っています。今回の工事に際し、充分とは言えない設計期間（60日）と短い工期（約70日）の中で工事完了出来たことは、御施主様と私共ミサワホームとの信頼関係と、それを陰で支えて頂いた医療機器業者の高野様の御尽力のひと言に尽きると思います。信頼関係と熱意が成し得た診療所の好例のひとつだと実感しています。

（株）ミサワホーム

歯科医院の新築・改築・増築から、
医院経営まで、
すべてわかる。



歯科医院

定価10,300円
（本体10,000円）

開業ガイド

- 〈主な項目〉
- 歯科医院のセクション別実例
 - 歯科医院のレイアウトチェックリストと基本事項
 - 歯科医院のレイアウト実例
 - これから開業される先生方へ
——オサダからのアドバイス他
- 〈別冊付録〉
- 設備機械、器具、材料リスト



歯科医院

定価6,180円
（本体6,000円）

経営マニュアル

- 〈主な項目〉
- 開業準備の留意点
 - 開業準備計画書／開業収支・資金計画書
 - 歯科医の節税戦略（青色申告・特別経費・専従者給与・損益通算・特別償却
 - MS法人・医療法人
 - 財テク・税テク 他

※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業株／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(3492)7651代



神奈川歯科大学同窓会

セブ・フリークリニック

1521年マゼランによって世界に知られるようになったセブ島は、フィリピン諸島中部に浮かぶ面積およそ4400km²の島。近年は常夏の観光地として多くの人達がバカンスに訪れ、財政も多少豊かになったとは云え、一歩奥地に入れば…。特に医療、中でも歯に関する治療は事情柄、どうしても後回しになる。そうした実情を見かねて歯科医療団を結成。10年に及ぶボランティア活動を行って来た神奈川歯科大学同窓会を今回はお知らせします。

ご登場頂いたのは今回診療——保存修復部門で主任を務められた山田格先生を中心に、副主任の小泉功先生、抜歯部門で副主任を務められた杉原昌実先生に途中から加わって頂き派遣の動機、現地の状況、感想などを語って頂いた。

山田：私は第2回からこの会に加わりましたが、最初セブ島に歯科医療団を派遣しようと会に呼びかけたのは、10年前元副会長をされていた米山先生がフィリピンに友人がいて、その方が現地では歯科治療に困っている人が多くいる、との話から発足させたようです。最初1～2回は現地の様子もわからず、ただダンボールに材料や器材をつめ込み、それを向こうで全部ひろげ、組み立てて治療をするという、非効率というか、治療前大変な苦勞をしておりました。それを知った同窓生の北村裕先生（以前、ズーム・アップでもお知らせしましたが、ユニットも自身で組み立てる程の工学技術に詳しい先生）が、それではと加わって頂き…。以

来ですね、効率的に限られた日数、時間内で診療がスムーズに行われ、こん日のようになったのは。

Q：治療内容は？

山田：以前は、保存治療のための切削器具などがなかったため、痛いと言う箇所があれば、そのまま抜歯という治療しか出来ませんでした。今はコンパクトな携帯ユニットや根管治療器が揃っていますので、保存や充填などで助かる歯を活かすことが出来るようになりました。

Q：どの位の日数で何人位診られたのですか？

山田：2月10日～14日までの5日間。今回は10周年ということで60名の先生方がご参加下さり、患者数800人を、およそ充填200人抜歯600人という治療内容になりました。

Q：現地で感じられたことは？

山田：ホテルから40～50分入った小学校で治療をしたのですが、正直口腔内の状態は最悪です。来患者の8割は歯の治療は生まれて初めてという状態でした。でも子供においては、日本人の子供達よりムシ歯はむしろ少なく、1～2本が壊滅状態になっていますが、残りはしっかりしていました。原因は食生活の差でしょうね。甘い物が少なく、普段の食べ物も、素材をそのまま活かした物が多く、従って顎も十分に発達していて、歯の根が長い。抜くのは大変でしたが(笑)。

Q：若い小泉、杉原先生、ご感想は？

小泉：3年前に大学を卒業し、これに参加するのは2度目ですが、一口に云って良い経験となりました。あちらでは保険制度がなく、国民の大半が貧しいために、歯の治療を受けられるのはほんの一部の人。誰でも治療を受けられる日本人がいかにか幸せか、ということを感じました。院長に誘われ行きましたが、こうした経験は将来きっと役に立つのでは、と思っております。

杉原：1人およそ16万円。全額個人負担のボランティア活動ですが、日本という裕福な国に住んでいるとこれが当たり前と、つい忘れがちになりますが…。外から日本を見るということが一番良い勉強になりました。心がけたことは、良い治療を受けられる日本人と同等に、出来る限りのことをやってあげたいと思っていました。私もこの経験は将来必ず役立つと思っております。

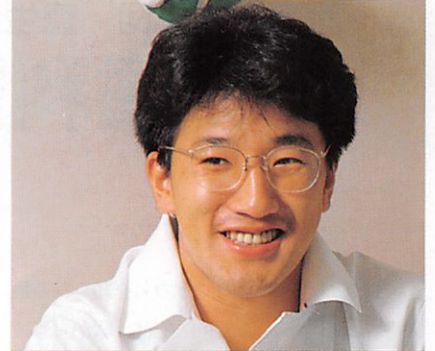
山田：参加される方々の6～7割は常連の先生方で、中には10才～20才と年齢も開い

ている方もおりますが、先輩後輩の隔たりもなく全員が仲間となって一生懸命に治療に取り組んでおりました。こうした経験は、今後日本で接する患者さんにもきっと“やさしさ、暖かさ”となって表れるのではないかとと思っています。

小泉：準備期間は大変だったんですが、治療が終わって、現地の患者さんが喜んでる姿を見ると、ああ来て良かったと心の充実を感じましたね。

山田：神奈川県歯科用品商組合やロータリークラブからの寄付など、色々なところが支援して下さい今回も無事終わりましたが、今後も出来る限りの同窓生に参加を呼びかけ、更に大きく。出来たらインドやネグロス島などセブ島以上に医療に困っている地域に行き、私達の出来ることを提供して行きたい。そう思っております。

日本は今、世界有数の経済大国として確固たる地位を占め、他国に大金を援助出来るようになった。しかし本当にそれ等が心までも含めた援助・お金として活きているのだろうか。ボランティアとして草の根から心を通わせている先生方、それは素晴らしいことであろうが、こうした活動に行政側ももう少し目を向け支援して行くべきではないだろうか。政府とは国民一人一人が作り上げるべきもの。政府間での大金のやりとりも時には必要であろうが、本当に心が通じ合うのは、長い年月をかけたこうした活動によって相互が友情・理解を深め、育って行くのではないだろうか。神奈川歯科大学同窓会のご活躍の話を聞きながら、そう思った。



中村 由紀さん
横山 桂子さん
岡部 範子さん



医療法人社団 豊生会

湯原歯科医院

院長 湯原良通
岡山市西大寺中野137-11

“裸まつり”で全国にその名を知られる西大寺。ご紹介の湯原歯科医院は、駅から車で4～5分。県道28号線を折れた静かな住宅街の中にある。写真でもおわかりのように、玄関側面につくられた高さ1メートル以上はあるかと思われるリングに“岡山子どもの歯を守る会”の文字がなければ、病院ではないかと思える程、大きな建物と敷地を有し建っている。

1階はユニット9台を、それぞれ個室診療形式に作られ、中には外科手術用の大型特別ライトが設置された室もある。2階は応接室、院長研究室、20人は収容出来るかと思われる研修室、スタッフルーム。3階は技工室とそれぞれが十分なスペースで配置されている。

院長は現在中四国インプラント学会理事、日先研理事等、インプラントに関する数々の役職を務められている岡山を代表する大家の一人、と云っても年齢は今年51才。名実ともに脂の乗った働き盛りのリーダーである。院長のお話は後程お伝えするとして、まずはご紹介の3人の女性。スタッフ8名の中から、受付、衛生士、助手とそれぞれ違った分野を代表し、自身の仕事内容、心構え等を語って頂いた。

中村さんは高卒後ゴルフ場、薬局などに勤めた後、当院に就職し2年を迎えたアシスタントさん。歯科医院に勤められた動機を「薬

局時代に人間の健康管理ということに興味湧き、歯科助手ならばプラス技術も身に付けられるから」と。で今は?「外部から見る医院と内部とは大違い(笑)。本当はもっと静かでゆったりしていると思っていたの…。でもブラッシング指導など好きですし、やれてい



るかどうかは別にして、人を助ける仕事ですし、今まで経験した職業の中では一番好きな仕事ですね」。一昨年あたりから結婚で退職されていった先輩達に替わって、女性スタッフの主任を務めるしっかりした印象の明るいアシスタントさんだ。ブラッシング指導や検診は定期的に行われているのですか?「ええ、当院はリコール制を導入しておりますから、治療後半年とか1年目に来院して頂き、検診後スケーリングやブラッシング指導をやりま

す。又、小学生までの子供を対象に、フッ素塗布や洗口も実施しておりますので、そうした指導等も。たのしくやりがいのある仕事で

選んで良かったと思っています。結婚後は?

「この仕事は奥が深いし、やりがいもありますので、経験の浅い私にはまだまだ勉強しなければならぬことが多いので、出来たら続けたいですね。やる気満々、将来がたのしみなアシスタントさんである。

横山さんは、岡山歯科衛生士専門学校を卒業され当院に入って1年目のホヤホヤ衛生士さん。当院に就職された動機は「アルバイトや実習で補綴を主にやる医院を経験して来ましたので、今度はインプラントをやる医院に勤めよう」と…。で、そうした手術に立合われての感想は?「手術中は私も夢中ですのであまり感じないのですが、1人最低2時間はかかりますので終るとやはり疲れますね。でも思っていた通り、やりがいはあります」とハキハキした応答。——衛生士学校に入られた動機は?「高卒時、自分が何に向いているのかわからず、両親に相談したら、これからは老人社会になるから、歯科関係が良いのでは?と云われ学校に入りました。いま他の道に進んだ友達の話を知っていると、ああこの道に入って良かったなと思います。どんな時に?「入局1年足らずで目も浅いのですが、患者さんにブラッシング指導などして、次に来た時“頑張っているよ”と云われ、歯グキ等が良くなっているのを見たらうれしいし、この道でのやりがいを感じます」。院長は厳し



い?「こうした職業ですから当然でしょうが、特に礼儀や挨拶等には厳しいですね。毎週月曜日には朝礼があり、院長或いはドクターから医院の方針や気づいた注意事項などの話がありますが、そうした話(応待)が多いですね」。

岡部さんは受付担当。「就職する前も他の会社の受付をやっておりましたから、受付ぐらい、と軽く見ていましたが思っていたよりずっと大変ですね」。どんなところが?「言葉使いや明るさを持って接する事は当然ですが、患者さんの悩みは1人1人違いますし、以前ある人から“患者さんは心を串刺しにされた人である”と云う言葉を聞きましたが、そうし

た心、恐怖感を少しでも和らげてあげるのが受付の役目。難しいです。それと患者さんとの仕事(治療)の間に立って、苦情の聞き役と云うんですか、そのクッション役を果たさなければなりません。最初考えていた受付よりずっと難しいですね。でもその分やりがいもあります」。時間は?「通常は受付は6時まで、帰るのは7時ちょっと過ぎですが、矯正の日(月1回)は集中的にそうした患者さんが来られますので8時を過ぎます」。ボーイフレンドは?「山ほどおります、と前の2人が答えなさいと云っておりますから(笑)」。ユーモアもある臨機応変なご返事。明るい性格にさぞ患者さんも助かることであろう。



〈院長から一言〉
湯原良通

現在歯科医院は患者さんの望むことに積極的に応えてあげる時代を迎えております。歯科全般は当然ですが、幸い口腔外科の友人がおりますので、その方と顎変形症と審美歯科とを組合わせた手術やインプラント等、特殊といわれる分野に対しても患者さんの要望に対応することが出来るようにしています。手術には時として5~6時間もかかることがあり、そうした時にはさすがに私も疲れます。坦雪埋井(たんせつまいせい)という言葉がありますが、教育とは、即明日から変わる、と云うものでなく、くり返しの中

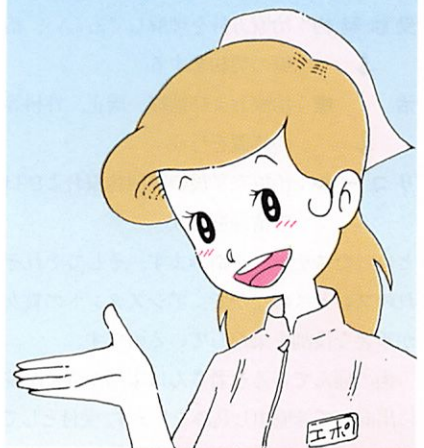
で少しずつ意識され変わっていくものではないでしょうか。昔の歯科医院は家庭的雰囲気と云うかルールなどない方が勤め易いと思われがちでしたが、現代の若者にはもう通用しません。組織の中で働く一員として、ルールに沿って仕事をすること。それを作ることが医院のためにもなるし、若い人もその中で考え、自覚し、やりがいを見いだすのではないのでしょうか。又医院においてもそうしたルールを作っておけば新しい人が入ってもそれに沿って仕事をやれば良いし、患者さんも医院の雰囲気が変わらず安心出来るのではないかと思います。欲を云えばきりありませんが、皆さん精一杯、良くやってくれていますよ。

アシスタント のための 診療室の手引き



定価6,180円
(本体6,000円)

アシスタントとしての心構えから話し方、患者さんへの対応の仕方、会計、消毒、手渡し技術等々をわかりやすく解説。また、簡単な機械のメンテナンスも図付で説明。アシスタントのノウハウを詰め込んだ一冊です。



※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。

長田電機工業株/お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(3492)7651(代)

診療室訪問シリーズ



オサダシンプルビジョン

東用第122号

患者さんには、口腔内の診査、X線、治療という過程を採っていますが、口腔内の現状の説明の段階でこのシンプルビジョンは大活躍です。操作も楽ですし、患者さん自身も口腔内の細部に亘って知ることが出来、お互いに納得し合った診療には不可欠なものになりました。その他治療前後の顔貌の変化や技工士さんとのデイスカッションや口腔内の説明など、写真を撮るより数倍の威力を発揮してくれます。扱いても楽で、入れて良かったですね！

◆ 駅から国道4号線を右折して4〜5分走ると、辺りは仙台を代表するビジネス街となる。県庁と向かい合うようにして建つ市役所前を左折した角ビル1階に開業4年目を迎える「コンバイ歯科医院」。

◆ 院長は卒業後、加藤吉昭教授の補綴学教室にて研修を積み、故郷である此処仙台市に戻り大学の同級生である奥様と伴にご開業。大きな目、太い声、丁寧な応対は東北人そのもの、といった印象。「歯科医は長時間細かい仕事を強いられる職業です。で疲れるのはあたりまえ、その中で頑張らなければと思います。この辺りはビジネス街で、患者さんもビジネスマンが多いことから、歯に対する認識度も高くやりがいがありますよ。明るいスタッフと共にキビキビしたお話し振りが、好感を呼ぶのであろう。患者数も1日30名ぐらいに調整している」と云う。

コンバイ歯科医院

仙台市青葉区国分町3丁目8-3

院長 **李 根培**

(日本大学松戸歯学部卒・34才)



お互いに納得しあつた診療には
必要・不可欠なシンプルビジョン。
操作も楽で、衛生士や技工士も含め、
今では大活躍です。



※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。

岡林歯科診療所

高知市はりまや町1-5-26

院長 岡林 宏

(日本歯科大学卒・46才)



SMILY Fine ML 型
製造承認番号01B第1878号

患者さんも私も、楽に動ける
スマイリー(フライン)モータータイプ。
便利で使いやすいですよ。

高知一の繁華街、はりまや橋の交差点を室戸方面に向かって70m。1階入口より2階の診療室に上る階段壁面に沿って、楽ちん号と呼ばれる「いす式階段昇降機」が設置されている。高齢化社会を迎えて、これなら足の不自由なお年寄りや車椅子使用者も、その名の通り楽々と診療室に行きつくことが出来るであろう。御祖父様の代から続く3代目である院長の暖かい診療姿勢がわかるようだ。

「現在患者数は1日平均35名位ですが、妻が受付・助手はむろんのこと、医院運営も総てやってくれますので、私は専ら治療一筋、非常に助かっています。傍らから奥様「医院の仕事は治療以外にやるべきことが多いのですが、私は動くことが好きですし、私達の医



院だと思えば全く苦になりません。よく患者さんから、朝から晩までいつもいっしょで飽きない?と云われますが……。全然、ネ!
(笑)「うん」と顔を見合わせるお二人。

近代日本を築いた「土佐のいごっそう達。やっぱり明治は遠くな
った! (?)」

以前のスマイリーが10年過ぎましたので、この「フライン」L型モータータイプに変えました。私は行動範囲が狭くなりますので、ほとんどの治療は立位でやりますが、このモータータイプは患者さんの導入時にアームを動かす必要もありませんし、どんな態型をとっても手元で楽に操作できます。機械いじりは昔から好きですが、このユニットは良く出来ていて使いやすいですね。